

高 校 Ⅱ 年

2025

Syllabus

職員室用

高田高等学校

学 科 名			普 通 科												
教 科	科 目	標 準 単 位 数	I 類 進 学						II 類						
			I	II		III			I		II		III		
				文	理	文1	文2	理	進学	特別選抜	文・特文	理・特理	文	特文	理・特理
国 語	現代の国語	2	2						2	2					
	言語文化	2	2						2	2					
	論理国語	4		2	2	2	2	2			2	2	2	2	2
	文学国語	4		2		2	2								
	国語表現	4													
	古典探究	4		3	3	2	2	2			3	3	3	3	3
	表現基礎 (学)	2~3				2	2							3 ^B	
	文学基礎 (学)	1										1		1	1
地理歴史	地理総合	2		2	2						2	2			
	地理探究	3													3
	歴史総合	2	2						2	2					
	日本史探究	3		3 } 3		5 } 5	5 } 5				3 } 3		4 } 4	4 } 4	
	世界史探究	3		3 } 3		5 } 5	5 } 5				3 } 3		4 } 4	4 } 4	
公 民	公共	2	2				2		2	2	2				
	倫理	2													
	政治・経済	2				2		2					3	3	
数 学	数学 I	3	3						3	3					
	数学 II	4	1	4	4	3		4 ^T	1	1	3	3	3 ^A	3	
	数学 III	3						4 ^S				1			4
	数学 A	2	2						3	3					
	数学 B	2			2	3		1 ^T			2	2	2 ^A	2	1
	数学 C	2			1			1 ^T 2 ^S			1	1	1 ^A	1	2
	数学基礎演習 (学)	2											2 ^B		
	科学と人間生活	2					2								
理 科	物理基礎	2	2						2	2					
	物理	4			3			4			4				4
	化学基礎	2		2		2	1	2			2	2	2 ^A	2	4
	化学	4				2		5			3				4
	生物基礎	2	2	1		3	1	2		2	1	4	1	1	4
	生物	4			3			4			4				4
	地学基礎	2													
	地学	4													
	保健体育	体育	7~8	3	3	2	2	3	2	3	3	3	2	2	2
保 健	2	1	1	1				1	1	1	1				
芸 術	音 楽 I	2	2	1					2	2					
	音 楽 II	2					2								
	音 楽 III	2													
	美 術 I	2	2	1					2	2					
	美 術 II	2		2			2			2			2		
	美 術 III	2													
	工 芸 I	2													
	工 芸 II	2													
	工 芸 III	2													
	書 道 I	2	2	1					2	2					
	書 道 II	2					2								
	書 道 III	2													
	外 国 語	英語コミュニケーション I	3	3						3	4				
英語コミュニケーション II		4		4	4						4	4	3 ^B		
英語コミュニケーション III		4				4	4	4					4	4	4
論理・表現 I		2	3						3	3					
論理・表現 II		2		3	3						3	3			
論理・表現 III		2				3	3	2					3	3	2
家 庭	家庭基礎	2	2						2	2					
	家庭総合	4													
情 報	情報 I	2				2	2	2					2	2	2
	情報 II	2													
理 数	理数探究基礎	1													
	理数探究	2~5													
宗 教	一般仏教 (学)	2~3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	宗乗・余乗 (学)	(5)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)
総合的な探究の時間 (実施時間数)		3~6 ()	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)
	科目の単位数の計		34	33	33	33	33	33	35	36	35	35	35	35	35
特別活動	ホームルーム活動	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合 計			35	34	34	34	34	34	36	37	36	36	36	36	36

S6単位選択

A6単位選択

T6単位選択

B6単位選択

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	論理国語	単位数	2 単位	履修学年	Ⅱ年 類進学
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会での活動に備えて、国語を通して物事を的確に理解し、効果的に表現するための国語の知識や技能を身につける。 ・他者との協働に備えて、論理的かつ批判的に思考する力を伸ばし、また、創造的に思考する態度を育み、思考から導かれる内容を適切に伝えられるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけている。						
	【思考・判断・表現】書くこと」「読むこと」の領域において、論理的かつ批判的に思考し、また、創造的に思考し、協働の場面において、互いの考えを適切に伝え合っている。						
	【主体的に学習に取り組む態度】言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。						
使用教材	【教科書】標準 論理国語（第一学習社） 【副教材】常用漢字ダブルクリア五訂版（尚文出版）・グラimesteps現代文1. 5（尚文出版）イラストとネットワーキングで覚える現代文単語 げんたん（いっずな書店）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「名所絵はがきの東西」 ・「新しい地球観」 ・「情けは人の…」 			<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章の構成や展開を的確に捉える ・筆者の主張を的確に捉える ・図や表などの特徴を正しく捉えて文章を読み、筆者の意見を正確に把握する。 ・論理的な文章で使われる語彙の意味を正しく理解すると共に、言葉に対する筆者の姿勢を読み取る。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒトはなぜヒトになったか」 ・（実用文）法に関わる文章を読み比べる ・「共同性の幻想」 			<ul style="list-style-type: none"> ・因果関係を整理しながら読むことで、「ヒト」の進化の過程を読み解く。 ・資料を複数の観点から評価し、整理する方法を学ぶ。 ・現代社会の社会背景を理解し、現代の課題や我々の在り方について考察を試みる。 ・抽象的かつ論理的な文章を理解するとともに、筆者の意見に対する考えを書くことや話すことで表現する。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「鏡としての他者」 ・「バラと通貨はどう違う？」 			<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章の構成や展開を的確に捉え、その論旨をまとめることができる。 ・「自己」や「他者」についての筆者の主張を理解し、自分の在り方や他者との関係性についての考えを表現する。 ・対比して説明される「通貨」の特徴を理解し、筆者の述べる「通貨」の本質を理解する。 ・筆者の主張や本文の内容を評価し、自分の考えを深める。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の小テストや現代単語の小テストを行い、語彙の定着を図る。 ・「読む・話す・書く」活動をバランス良く行い、探究活動につなげる。 ・小論文・志望理由書など、書くことを中心とした活動を適宜取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	論理国語	単位数	2 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類進学
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会での活動に備えて、国語を通して物事を的確に理解し、効果的に表現するための国語の知識や技能を身につける。 ・他者との協働に備えて、論理的かつ批判的に思考する力を伸ばし、また、創造的に思考する態度を育み、思考から導かれる内容を適切に伝えられるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的かつ批判的に思考し、また、協働の場面において、創造的に思考し、互いの考えを適切に伝え合っている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。</p>						
使用教材	<p>【教科書】論理国語（第一学習社）</p> <p>【副教材】常用漢字ダブルクリア（尚文出版）・グランステップ現代文2（尚文出版） 速読＋要約＆語彙チェック 2レベル論理10・文学10 B（尚文出版） イラストとネットワーキングで覚える現代文単語 げんたん（いっずな書店）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「天然知能として生きる」 ・「自他の『間あい』」 ・『「私」中心の日本語』 ・推論 			<ul style="list-style-type: none"> ・これからの人間の知性のあり方について考えを深める。 ・言い換えや比喩を用いた評論文の叙述の方法について理解する。 ・具体例と主張との関係を整理して論理構成を把握し、筆者の主張を理解する。 ・推論のしかたについて理解し、活用する。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本人の『自然』」 ・「手の変幻」 ・「越境する動物がもたらす贈り物」 ・「働かないアリに意義がある」 ・読み比べ コミュニケーション 			<ul style="list-style-type: none"> ・本文の論点を対比的につかみ、筆者の問題意識や執筆意図に目を向ける。 ・筆者の主張に説得力を持たせるための論理展開について考える。 ・筆者の主張とそれを支える根拠の関係に着目して理解する。 ・例から人間社会の問題点へと展開する論の構造を読み取り、筆者の主張を理解する。 ・類似するテーマの文章を読み比べ、味わう。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・AI時代の社会と法 ・なぜ多様性が必要か ・コミュニティ空間としての都市 ・実用文 			<ul style="list-style-type: none"> ・AIの発展がもたらす社会と法の関係の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。 ・筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。 ・論理展開と対比構造を把握し、将来の社会のあり方を構想する広い視野を培う。 ・実用的な文章から必要な情報を読み取る。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜漢字・語彙の小テストを行い、基本的知識の定着を図る。 ・適宜授業冒頭に速読を行い、要点を掴む練習を行う。 ・適宜問題集で、論理・文学・実用文の演習を行う。 ・「読む・話す・書く」活動を行い、探究活動につなげる。 ・小論文・志望理由書など、書くことを中心とした活動を適宜取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	論理国語	単位数	2 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類特選
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会での活動に備えて、国語を通して物事を的確に理解し、効果的に表現するための国語の知識や技能を身につける。 ・他者との協働に備えて、論理的かつ批判的に思考する力を伸ばし、また、創造的に思考する態度を育み、思考から導かれる内容を適切に伝えられるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的かつ批判的に思考し、また、協働の場面において、創造的に思考し、互いの考えを適切に伝え合っている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。</p>						
使用教材	<p>【教科書】論理国語（第一学習社）</p> <p>【副教材】常用漢字ダブルクリア（尚文出版）・グランステップ現代文2（尚文出版） 速読＋要約&語彙チェック 2レベル論理10・文学10 B（尚文出版） イラストとネットワーキングで覚える現代文単語 げんたん（いっずな書店）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「天然知能として生きる」 ・「自他の『間あい』」 ・『私』中心の日本語 ・推論 			<ul style="list-style-type: none"> ・これからの人間の知性のあり方について考えを深める。 ・言い換えや比喩を用いた評論文の叙述の方法について理解する。 ・具体例と主張との関係を整理して論理構成を把握し、筆者の主張を理解する。 ・推論のしかたについて理解し、活用する。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本人の『自然』」 ・「手の変幻」 ・「越境する動物がもたらす贈り物」 ・「働かないアリに意義がある」 ・読み比べ コミュニケーション 			<ul style="list-style-type: none"> ・本文の論点を対比的につかみ、筆者の問題意識や執筆意図に目を向ける。 ・筆者の主張に説得力を持たせるための論理展開について考える。 ・筆者の主張とそれを支える根拠の関係に着目して理解する。 ・例から人間社会の問題点へと展開する論の構造を読み取り、筆者の主張を理解する。 ・類似するテーマの文章を読み比べ、味わう。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・AI時代の社会と法 ・なぜ多様性が必要か ・コミュニティ空間としての都市 ・実用文 			<ul style="list-style-type: none"> ・AIの発展がもたらす社会と法の関係の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。 ・筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。 ・論理展開と対比構造を把握し、将来の社会のあり方を構想する広い視野を培う。 ・実用的な文章から必要な情報を読み取る。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜漢字・語彙の小テストを行い、基本的知識の定着を図る。 ・適宜授業冒頭に速読を行い、要点を掴む練習を行う。 ・適宜問題集で、論理・文学・実用文の演習を行う。 ・「読む・話す・書く」活動を行い、探究活動につなげる。 ・小論文・志望理由書など、書くことを中心とした活動を適宜取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	文学国語	単位数	2 単位	履修学年	Ⅱ年 類文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」「読むこと」の各領域で深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高めている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>						
使用教材	<p>【教科書】標準 文学国語（第一学習社）</p> <p>【副教材】常用漢字ダブルクリア五訂版（尚文出版）、グランステップ現代文1. 5（尚文出版） イラストとネットワークで覚える現代文単語 げんたん（いっずな書店）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「デューク」 ・「生命は」 ・「真珠の首飾りの少女」 			<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物との交流による主人公の心理や心理の変化を精密に読み取る。 ・詩の構成や比喩に注目して読む。 ・作者の「自分」や「他者」に対する捉え方を理解する。 ・随筆の文体の特徴や表現の技法を理解する。 ・読者に絵画への関心を持たせる工夫について考える。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしが一番きれいだったとき」 ・「血であがなったもの」（第Ⅱ部） ・「ナイン」 			<ul style="list-style-type: none"> ・内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。 ・題材である「戦争」への理解を深めるとともに、題材に対する感じ方、考え方を深める。 ・登場人物の発言や様子から、表に表れていない心情を読み取る。 ・登場人物の立場や心情を整理しながら関係性を理解する。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「こころ」 			<ul style="list-style-type: none"> ・近代に著わされた普及の名作を読むことで、国語と文学の価値と普遍性、先見性を知る。 ・テキストに明言されない一人称の語り手の心理や態度を読み取る。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の小テストや現代単語の小テストを行い、語彙の定着を図る。 ・精密さと全体の味わいの緩急をつけて読む。 ・小論文・志望理由書など、書くことを中心とした活動を適宜取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	古典探究	単位数	3 単位	履修学年	Ⅱ年 類文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の古典に対する理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>						
使用教材	<p>【教科書】標準 古典探究 古文編 漢文編（第一学習社）</p> <p>【副教材】新明説古典文法、新明説漢文、グランステップ古典（尚文出版）・古典単語 330（いづな書店）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	古文 『十訓抄』文字一つの返し 『古今著聞集』小式部内侍が大江山の歌の事 『徒然草』公世の二位のせうとに 漢文 「故事・寓話」助長・推敲			<ul style="list-style-type: none"> ・著名な人物にまつわる説話を読み、背景事情などについて理解を深める。 ・随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して構成や展開、内容を的確に捉える。 ・現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 			
2	古文 『徒然草』奥山に、猫またといふものありて 『方丈記』ゆく川の流れ 『伊勢物語』初冠 漢文 『十八史略』水魚之交 「漢詩の鑑賞」鹿柴・絶句			<ul style="list-style-type: none"> ・時代の転換期に作者が抱いた、人の世に対する思いを通して、ものの見方や考え方を深める。 ・物語の中で和歌の果たす役割を押さえ、場面と登場人物の心情とを読み味わう。 ・諸葛亮が劉備に進言した策について理解するとともに、両者の関係を把握する。 			
3	古文 『沙石集』児の知恵 『枕草子』雪のいと高う降りたるを 漢文 「漢詩の鑑賞」峨眉山月歌・春夜・除夜寄弟妹			<ul style="list-style-type: none"> ・庶民教化を目的とした説話を読んで、何を戒めようとしたかを読み解く。 ・随筆という文章形式を通して、当時の人のものの見方や考え方に触れる。 ・漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々の感性を通して考えを広げる。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・古文単語の知識を定着させるため、古語の小テストを実施する。 ・問題集は、長期休業期間や自主学習など適宜使用する。 ・「言語活動」の課題に適宜取り組む。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	古典探究	単位数	3 単位	履修学年	Ⅱ年 類理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の古典に対する理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>						
使用教材	<p>【教科書】標準 古典探究 古文編 漢文編（第一学習社）</p> <p>【副教材】新明説古典文法、新明説漢文、グランステップ古典（尚文出版）・古典単語 330（い いずな書店）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	古文 『十訓抄』文字一つの返し 『古今著聞集』小式部内侍が大江山の歌の事 『徒然草』公世の二位のせうとに 漢文 「故事・寓話」助長・推敲			<ul style="list-style-type: none"> ・著名な人物にまつわる説話を読み、背景事情などについて理解を深める。 ・随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して構成や展開、内容を的確に捉える。 ・現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 			
2	古文 『徒然草』奥山に、猫またといふものありて 『方丈記』ゆく川の流れ 『伊勢物語』初冠 漢文 『十八史略』水魚之交 「漢詩の鑑賞」鹿柴・絶句			<ul style="list-style-type: none"> ・時代の転換期に作者が抱いた、人の世に対する思いを通して、ものの見方や考え方を深める。 ・物語の中で和歌の果たす役割を押さえ、場面と登場人物の心情とを読み味わう。 ・諸葛亮が劉備に進言した策について理解するとともに、両者の関係を把握する。 			
3	古文 『沙石集』児の知恵 『枕草子』雪のいと高う降りたるを 漢文 「漢詩の鑑賞」峨眉山月歌・春夜・除夜寄弟妹			<ul style="list-style-type: none"> ・庶民教化を目的とした説話を読んで、何を戒めようとしたかを読み解く。 ・随筆という文章形式を通して、当時の人のものの見方や考え方に触れる。 ・漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々の感性を通して考えを広げる。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・古文単語の知識を定着させるため、古語の小テストを実施する。 ・問題集は、長期休業期間や自主学習など適宜使用する。 ・「言語活動」の課題に適宜取り組む。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	古典探究	単位数	3 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類進学
到達 目標	<p>・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>						
評価 の観 点・ 評価 基準	<p>【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。</p> <p>【思考・判断・表現】「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p>						
使用 教材	<p>【教科書】古典探究 古文編 漢文編（第一学習社）</p> <p>【副教材】新明解総合古典文法（尚文出版）・古文単語330（いづな書店）・新明説漢文（尚文出版）・グランステップ古典（尚文出版）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>『古今著聞集』小式部内侍が大江山の歌の事 『沙石集』歌ゆゑに命を失ふ事 『徒然草』つれづれなるままに・よろづのことは、月見るにこそ 『方丈記』ゆく川の流れ</p> <p>「故事・寓話」呉越同舟・知音 『十八史略』鶏鳴狗盜</p>			<p>・説話や昔話、歌物語を読んで、古典に親しみそのおもしろさを味わう。</p> <p>・随筆から作者のものの見方・感じ方・考え方について理解し、思考力や想像力を深める。</p> <p>・語の文法的な識別ができるようにする。</p> <p>・漢文に親しみ当時の人々の姿を味わう。</p> <p>・故事の成り立ちや意味を正しく理解する。</p> <p>・基本句形について理解する。</p>			
2	<p>『大和物語』姨捨 『蜻蛉日記』うつろひたる菊 『和泉式部日記』夢よりもはかなき世の中 『枕草子』二月つごもりごろに 『源氏物語』光源氏誕生</p> <p>『名家の文章』雑説 『史記』鴻門之会・四面楚歌 「漢詩の鑑賞」</p>			<p>・日記を読んで、人間や社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。</p> <p>・物語文学を読み、登場人物の心情について文章中の表現を根拠に読み味わう。</p> <p>・本文中の和歌について特質を考える。</p> <p>・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。表現の特色を理解する。</p> <p>・漢詩を味わい、詩形や韻などを理解する。</p>			
3	<p>『大鏡』弓争ひ 『紫式部日記』若宮誕生 『更級日記』門出 『平家物語』忠度都落ち</p> <p>「諸家の思想」孟子・老子・荘子・韓非子</p>			<p>・歴史物語や軍記物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。</p> <p>・今までに学習した知識をふまえ、語句の意味を正しく捉え、文脈に沿って正しく読解をする。</p> <p>・中国の主要な思想家の主張を理解し、現代に通ずるものの見方や考え方を知る。</p>			
学習 上の 留意 点	<p>・副教材は長期休業期間や自主学習などで適宜使用する。</p> <p>・古典の基礎知識を定着させるため、古典単語などの小テストを実施する。</p> <p>・問題集は自主学習を主とするが、講義・演習形式をとることもある。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類特選
到達目標	<p>・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。</p> <p>【思考・判断・表現】「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p>						
使用教材	<p>【教科書】古典探究 古文編 漢文編（第一学習社）</p> <p>【副教材】新明解総合古典文法（尚文出版）・古文単語330（いいずな書店）・新明説漢文（尚文出版）・グラusstエップ古典（尚文出版）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>『古今著聞集』小式部内侍が大江山の歌の事 『沙石集』歌ゆゑに命を失ふ事 『徒然草』つれづれなるままに・よろづのことは、月見るにこそ 『方丈記』ゆく川の流れ</p> <p>「故事・寓話」呉越同舟・知音 『十八史略』鶏鳴狗盗</p>			<p>・説話や昔話、歌物語を読んで、古典に親しみそのおもしろさを味わう。</p> <p>・随筆から作者のものの見方・感じ方・考え方について理解し、思考力や想像力を深める。</p> <p>・語の文法的な識別ができるようにする。</p> <p>・漢文に親しみ当時の人々の姿を味わう。</p> <p>・故事の成り立ちや意味を正しく理解する。</p> <p>・基本句形について理解する。</p>			
2	<p>『大和物語』姨捨 『蜻蛉日記』うつろひたる菊 『和泉式部日記』夢よりもはかなき世の中 『枕草子』二月つごもりごろに 『源氏物語』光源氏誕生</p> <p>『名家の文章』雑説 『史記』鴻門之会・四面楚歌 「漢詩の鑑賞」</p>			<p>・日記を読んで、人間や社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。</p> <p>・物語文学を読み、登場人物の心情について文章中の表現を根拠に読み味わう。</p> <p>・本文中の和歌について特質を考える。</p> <p>・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。表現の特色を理解する。</p> <p>・漢詩を味わい、詩形や韻などを理解する。</p>			
3	<p>『大鏡』弓争ひ 『紫式部日記』若宮誕生 『更級日記』門出 『平家物語』忠度都落ち</p> <p>「諸家の思想」孟子・老子・荘子・韓非子</p>			<p>・歴史物語や軍記物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。</p> <p>・今までに学習した知識をふまえ、語句の意味を正しく捉え、文脈に沿って正しく読解をする。</p> <p>・中国の主要な思想家の主張を理解し、現代に通ずるものの見方や考え方をを知る。</p>			
学習上の留意点	<p>・副教材は長期休業期間や自主学習などで適宜使用する。</p> <p>・古典の基礎知識を定着させるため、古典単語などの小テストを実施する。</p> <p>・問題集は自主学習を主とするが、講義・演習形式をとることもある。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	文学基礎	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類進学文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり生活を豊かなものにする国語の知識や技能を身につける。 ・他者との協働に備えて、深い共感と豊かな想像のための力を伸ばすとともに、思いや考えを他者と伝え合うことでより広く深い思索ができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】文学的な表現に係る国語の知識や技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」「読むこと」の領域において、正確な読み取りをもとに深い共感や豊かな想像をする力を養い、また、その内容を話すことや書くことで適切に伝え合っている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。</p>						
使用教材	<p>【教科書】文学国語（第一学習社）</p> <p>【副教材】常用漢字ダブルクリア（尚文出版）・グランステップ現代文2（尚文出版） 速読+要約&語彙チェック 2レベル論理10・文学10 B（尚文出版） イラストとネットワーキングで覚える現代文単語 げんたん（いっずな書店）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「山月記」 ・「小諸なる古城のほとり」 ・「風船乗りの夢」 ・「永訣の朝」 			<ul style="list-style-type: none"> ・漢語的表現の特徴が作品に及ぼす効果を考え、作品を味わう。 ・文語定型詩の構成やリズムに親しみ、情景にこめられた心情を理解する。 ・想像によって膨らんだイメージが、作者の心情とどのように結びついているかを読み取る。 ・詩の中の自然に描かれ方に注目し、「いもうと」と「わたくし」それぞれの心情を想像しながら味わう。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「檸檬」 ・「真珠の耳飾りの少女」 ・読み比べ フェルメールの技を読む 			<ul style="list-style-type: none"> ・「私」の心の動きを作品中の表現に基づいてたどり、「檸檬」の役割について考える。 ・フェルメールの絵画を紹介する文章を読んで、読み手の関心を引きつける工夫について考える。 ・対談形式の文章から、話者のフェルメールに対する向き合い方の特徴を読み取り、『真珠の耳飾りの少女』との違いを考える。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「葉桜と魔笛」 ・「わたしが一番きれいだったとき」 ・「死んだ男の残したものは」 ・「春ーイラクの少女シャミラに」 			<ul style="list-style-type: none"> ・小説の展開において、「私」の語りの特徴がもたらしている効果を把握しながら読む。 ・詩の構成の意図を考えつつ「わたし」の心情をつかみ、詩の主題を理解する。 ・ベトナムの平和を願う反戦詩として書かれた背景をふまえ、作品に託された思いを読み取る。 ・対比的に配置された詩の構造を理解し、現代の戦争を描いた表現上の工夫を読み取る。 			
学習上の留意	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜漢字・語彙の小テストを行い、基本的知識の定着を図る。 ・適宜問題集で、論理・文学・実用文の演習を行う。 ・「読む・話す・書く」活動を行い、探究活動につなげる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	文学基礎	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類特文
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり生活を豊かなものにする国語の知識や技能を身につける。 ・他者との協働に備えて、深い共感と豊かな想像のための力を伸ばすとともに、思いや考えを他者と伝え合うことでより広く深い思索ができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】文学的な表現に係る国語の知識や技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」「読むこと」の領域において、正確な読み取りをもとに深い共感や豊かな想像をする力を養い、また、その内容を話すことや書くことで適切に伝え合っている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。</p>						
使用教材	<p>【教科書】文学国語（第一学習社）</p> <p>【副教材】常用漢字ダブルクリア（尚文出版）・グランステップ現代文2（尚文出版） 速読＋要約&語彙チェック 2レベル論理10・文学10 B（尚文出版） イラストとネットワーキングで覚える現代文単語 げんたん（いづな書店）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「山月記」 ・「小諸なる古城のほとり」 ・「風船乗りの夢」 ・「永訣の朝」 			<ul style="list-style-type: none"> ・漢語的表現の特徴が作品に及ぼす効果を考え、作品を味わう。 ・文語定型詩の構成やリズムに親しみ、情景にこめられた心情を理解する。 ・想像によって膨らんだイメージが、作者の心情とどのように結びついているかを読み取る。 ・詩の中の自然に描かれ方に注目し、「いもうと」と「わたくし」それぞれの心情を想像しながら味わう。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「檸檬」 ・「真珠の耳飾りの少女」 ・読み比べ フェルメールの技を読む 			<ul style="list-style-type: none"> ・「私」の心の動きを作品中の表現に基づいてたどり、「檸檬」の役割について考える。 ・フェルメールの絵画を紹介する文章を読んで、読み手の関心を引きつける工夫について考える。 ・対談形式の文章から、話者のフェルメールに対する向き合い方の特徴を読み取り、『真珠の耳飾りの少女』との違いを考える。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「葉桜と魔笛」 ・「わたしが一番きれいだったとき」 ・「死んだ男の残したものは」 ・「春ーイラクの少女シャミラに」 			<ul style="list-style-type: none"> ・小説の展開において、「私」の語りの特徴がもたらしている効果を把握しながら読む。 ・詩の構成の意図を考えつつ「わたし」の心情をつかみ、詩の主題を理解する。 ・ベトナムの平和を願う反戦詩として書かれた背景をふまえ、作品に託された思いを読み取る。 ・対比的に配置された詩の構造を理解し、現代の戦争を描いた表現上の工夫を読み取る。 			
学習上の留意	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜漢字・語彙の小テストを行い、基本的知識の定着を図る。 ・適宜問題集で、論理・文学・実用文の演習を行う。 ・「読む・話す・書く」活動を行い、探究活動につなげる。 						

科目の年間授業計画

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅰ類進学
到達目標	<p>①世界の生活文化の多様性や、地域や地球的課題、防災への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システム（以下GIS）などを用いて、調査や諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につける。</p> <p>②地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や地域、自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③よりよい社会の実現を視野に、地理に関する諸課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さに気付く。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。 ・地図やGISなどを用いて、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につけている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ・考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、取り組みを行う中で、自らの学習を調節しようとしている。 ・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・多面的、多角的な考察や深い理解を通して国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などが深まっている。 						
使用教材	教科書「新地理総合」（帝国書院発） 地図帳「新詳高等地図」（帝国書院発）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>第1部 地図でとらえる現代世界</p> <p>第1章 地図と地理情報システム</p> <p>1節 地球上の位置と時差</p> <p>2節 地図の役割と種類</p> <p>第2章 結びつきを深める現代世界</p> <p>1節 現代世界の国家と領域</p> <p>2節 グローバル化する世界</p>			<p>第1部第1章では、日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図やGISの役割や有用性などについて理解する。</p> <p>また、地図やGISなどを用いて、情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。</p> <p>第2章では、現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、日本の位置と領域、国内や国家間の結びつきなどについて理解する。</p>			

2	<p>第2部 国際理解と国際協力</p> <p>第1章 生活文化の多様性と国際理解</p> <p>1節 世界の地形と人々の生活</p> <p>2節 世界の気候と人々の生活</p> <p>3節 世界の言語・宗教と人々の生活</p>	<p>第2部第1章では、世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。</p> <p>世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。</p>
3	<p>第2章 地球的課題と国際協力</p> <p>1節 複雑に絡み合う地球的課題</p> <p>2節 地球環境問題</p> <p>3節 資源・エネルギー問題</p> <p>4節 人口問題</p> <p>5節 食料問題</p> <p>6節 都市・居住問題</p>	<p>第2部第2章では、世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。</p> <p>また、そうした問題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。</p>
学習上の留意点	<p>基礎的知識の習得の徹底を図る。</p> <p>講義形式の一方通行的な学習に陥らないよう、各テーマに応じた調べ学習や、発表などを行い、生徒が地理学習や課題の解決に主体的に取り組める環境作りを行う。</p>	

科目の年間授業計画

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類進学 ・特選文理共通
到達目標	<p>①世界の生活文化の多様性や、地域や地球的課題、防災への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システム（以下GIS）などを用いて、調査や諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につける。</p> <p>②地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や地域、自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③よりよい社会の実現を視野に、地理に関する諸課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さに気付く。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。 ・地図やGISなどを用いて、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につけている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ・考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、取り組みを行う中で、自らの学習を調節しようとしている。 ・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・多面的、多角的な考察や深い理解を通して国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などが深まっている。 						
使用教材	<p>教科書「新地理総合」（帝国書院発） 地図帳「新詳高等地図」（帝国書院発）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>第1部 地図でとらえる現代世界</p> <p>第1章 地図と地理情報システム</p> <p>1節 地球上の位置と時差</p> <p>2節 地図の役割と種類</p> <p>第2章 結びつきを深める現代世界</p> <p>1節 現代世界の国家と領域</p> <p>2節 グローバル化する世界</p> <p>第2部 国際理解と国際協力</p> <p>第1章 生活文化の多様性と国際理解</p> <p>1節 世界の地形と人々の生活</p>			<p>第1部第1章では、日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図やGISの役割や有用性などについて理解する。また、地図やGISなどを用いて、情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。</p> <p>第2章では、現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、日本の位置と領域、国内や国家間の結びつきなどについて理解する。</p> <p>第2部第1章では、世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。</p>			

2	<p>2節 世界の気候と人々の生活</p> <p>3節 世界の言語・宗教と人々の生活</p> <p>4節 歴史的背景と人々の生活</p> <p>5節 世界の産業と人々の生活</p> <p>第2部 国際理解と国際協力</p> <p>第2章 地球的課題と国際協力</p> <p>1節 複雑に絡み合う地球的課題</p> <p>2節 地球環境問題</p> <p>3節 資源・エネルギー問題</p>	<p>第2部第2章では、世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。また、そうした問題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。</p>
3	<p>4節 人口問題</p> <p>5節 食料問題</p> <p>6節 都市・居住問題</p> <p>第3部 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>第1章 自然環境と防災</p> <p>1節 日本の自然環境</p> <p>2節 地震・津波と防災</p> <p>3節 火山災害と防災</p> <p>4節 気象災害と防災</p> <p>5節 自然災害への備え</p> <p>第2章 生活圏の調査と地域の展望</p> <p>1節 生活圏の調査と地域の展望</p>	<p>第3部第1章では、世界や日本、生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。さまざまなハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付ける。</p> <p>第2章では、生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解した上で、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的知識の習得の徹底を図る。 ・講義形式の一方通行的な学習に陥らないよう、各テーマに応じた調べ学習や、発表などを行い、生徒が地理学習や課題の解決に主体的に取り組める環境作りを行う。 	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3単位	履修学年	Ⅱ年Ⅰ類 進学文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史の流れを理解し、歴史的考察力を身に付ける。 ・個々の歴史的事象を、因果関係の中で理解する態度を身に付ける。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。 ・歴史に見られる課題を把握・検討し、それらを適切に表現する力を養う。 ・歴史の変化に関わる諸事象について、その課題を主体的に追究、解決する態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化について、広く相互的な視野から捉え、理解できているか。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができているか。 						
	【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化に関わる諸事象について、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察できているか。 ・歴史に見られる課題を把握・検討し、またそれらを適切に表現できているか。 						
	【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『詳説日本史』（山川出版社） ・副教材『新詳日本史（付 史料の基礎210選）』（浜島書店） 						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立 第2章 古墳とヤマト政権 1. 古墳文化の展開 2. 飛鳥の朝廷 第3章 律令国家の形成 1. 律令国家への道 2. 平城京の時代 3. 律令国家の文化 4. 律令国家の変容 第4章 貴族政治の展開 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士			<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島における文化の発生について、自然環境などと関連付けて考えさせる。 ・海外から伝来した農耕や諸文化が、日本社会に与えた影響を理解させる。 ・律令国家の成立過程と、その変質の様子を理解させる。 ・貴族の生活と、地方における農民の成長を関連付けながら理解させる。 			
	第5章 院政と武士の躍進 1. 院政の始まり 2. 院政と平氏政権 第6章 武家政権の成立 1. 鎌倉幕府の成立 2. 武士の社会 3. モンゴル襲来と幕府の衰退 4. 鎌倉文化 第7章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化 4. 戦国大名の登場			<ul style="list-style-type: none"> ・武士の勢力が台頭し、平氏政権から鎌倉幕府へと武家政権が成立していく過程を理解させる。 ・貨幣経済の進展とモンゴル襲来が、鎌倉幕府と武家社会に与えた影響を理解させる。 ・庶民の台頭に注目して、一揆・惣村・下剋上など、中世社会の多様な事象を理解させる。 ・公家・武家・庶民の文化が融合し、今日の日本文化の基礎が築かれたことを理解させる。 ・幕府の権威が低下し、台頭した戦国大名同士が戦闘を行うようになったことを理解させる。 			
3	第8章 近世の幕開け 1. 織豊政権 2. 桃山文化 第9章 幕藩体制の成立と展開 1. 幕藩体制の成立 2. 幕藩社会の構造			<ul style="list-style-type: none"> ・貨幣経済の発展を基礎に、領国一元支配に向けて封建制再編が進むことを理解させる。 ・海外からの強い影響が、国内の政治経済的統合を進める一因であったことに気付かせる。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・各事象の因果関係や、後世への影響について、常に留意しつつ、理解を深めさせる。 ・図説、史料などの補助資料を活用し、史資料読解に積極的に取り組む。 ・生徒自身が学習内容について主体的に考え、更にそれを表現する機会を多く設ける。 ・発問や小テストなどを通じて知識の定着を図る。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類進学 ・特選文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史の流れを理解し、歴史的考察力を身に付ける。 ・個々の歴史的事象を、因果関係の中で理解する態度を身に付ける。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。 ・歴史に見られる課題を把握・検討し、それらを適切に表現する力を養う。 ・歴史の変化に関わる諸事象について、その課題を主体的に追究、解決する態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化について、広く相互的な視野から捉え、理解できているか。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができているか。 						
	【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化に関わる諸事象について、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察できているか。 ・歴史に見られる課題を把握・検討し、またそれらを適切に表現できているか。 						
	【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『詳説日本史』（山川出版社） ・副教材『新詳日本史（付 史料の基礎210選）』（浜島書店） 						
1	第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立			<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島における文化の発生について、自然環境などと関連付けて考えさせる。 			
	第2章 古墳とヤマト政権 1. 古墳文化の展開 2. 飛鳥の朝廷			<ul style="list-style-type: none"> ・海外から伝来した農耕や諸文化が、日本社会に与えた影響を理解させる。 			
	第3章 律令国家の形成 1. 律令国家への道 2. 平城京の時代 3. 律令国家の文化 4. 律令国家の変容			<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家の成立過程と、その変質の様子を理解させる。 			
2	第4章 貴族政治の展開 1. 摂関政治 2. 国風文化			<ul style="list-style-type: none"> ・貴族の生活と、地方における農民の成長を関連付けながら理解させる。 			
	3. 地方政治の展開と武士			<ul style="list-style-type: none"> ・武士の勢力が台頭し、平氏政権から鎌倉幕府へと武家政権が成立していく過程を理解させる。 			
	第5章 院政と武士の躍進 1. 院政の始まり 2. 院政と平氏政権			<ul style="list-style-type: none"> ・貨幣経済の進展とモンゴル襲来が、鎌倉幕府と武家社会に与えた影響を理解させる。 			
3	第6章 武家政権の成立 1. 鎌倉幕府の成立 2. 武士の社会 3. モンゴル襲来と幕府の衰退 4. 鎌倉文化			<ul style="list-style-type: none"> ・庶民の台頭に注目して、一揆・惣村・下剋上など、中世社会の多様な事象を理解させる。 			
	第7章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化 4. 戦国大名の登場			<ul style="list-style-type: none"> ・公家・武家・庶民の文化が融合し、今日の日本文化の基礎が築かれたことを理解させる。 ・幕府の権威が低下し、台頭した戦国大名同士が戦闘を行うようになったことを理解させる。 			
	第8章 近世の幕開け 1. 織豊政権 2. 桃山文化			<ul style="list-style-type: none"> ・貨幣経済の発展を基礎に、領国一元支配に向けて封建制再編が進むことを理解させる。 			
学習上の留意点	第9章 幕藩体制の成立と展開 1. 幕藩体制の成立 2. 幕藩社会の構造			<ul style="list-style-type: none"> ・海外からの強い影響が、国内の政治経済的統合を進める一因であったことに気付かせる。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・各事象の因果関係や、後世への影響について、常に留意しつつ、理解を深めさせる。 ・図説、史料などの補助資料を活用し、史資料読解に積極的に取り組む。 ・生徒自身が学習内容について主体的に考え、更にそれを表現する機会を多く設ける。 ・発問や小テストなどを通じて知識の定着を図る。 ・共通テストの出題傾向を踏まえ、史料の読解に慣れさせる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	3単位	履修学年	Ⅱ年Ⅰ類進学文系
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の各地で生まれた文明の特色を、地理的条件をふまえた上で理解する。 世界史の学習を通じ、世界との関わりから日本の歴史を捉えていこうとする視点を養う。 2年次に3単位（選択）、3年次に5単位（継続選択）で教科書の内容を学習する。 						
評価 の観 点・ 評価 基準	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習した内容が正しく身についているか。 教科書・資料を活用し、学習内容を深められているか。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習した内容について史料を利用しながら自分の考察を行えているか。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的事項について、周囲の人と意見交換でき、周囲の人の意見を参考にして事項の理解を深めているか。 						
使用 教材	<p>教科書：『詳説 世界史』（山川出版社）</p> <p>副教材：『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>世界史へのまなざし1・2</p> <p>第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成</p> <p>第1章 文明の成立と古代文明の特質</p> <p>第2章 中央ユーラシアと東アジア世界</p> <p>第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開</p>			<ul style="list-style-type: none"> 人類の誕生から文明の成立にいたるまでの先史時代を概観し、獲得経済・国家の形成に至る過程を認識させる。 両地域世界の特質を気候・地形などと関連させて捉えるとともに、ヨーロッパ世界の原型となることを知る。 独自の文明世界を形成した南アジア世界の特色を理解させ、同時に他地域への影響もつかませる。 乾燥した北と湿潤な南という二つの農耕世界を漢字文化が結びつけ、統一王朝が成立したことを理解させる。 遊牧民とオアシス民が共存するこの世界が諸地域をつなぎ、その役割を担った騎馬遊牧民への理解を深める。 北方民族の活発化と中国の分裂により、大きく変容した 			

		東アジア世界の状況を総合的に捉える。
2	<p>第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成</p> <p>第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成</p> <p>第II部 諸地域の交流・再編</p> <p>第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向</p> <p>第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市を背景に生まれたイスラームが、アジア・アフリカの各地に広がり新しい文明を築く様相を捉える。 ・西ヨーロッパ世界の形成を教会・封建社会などを軸にして確認する。また、ビザンツ世界がスラヴ社会へ影響を及ぼしていったことを理解させる。 ・清・オスマン帝国などのイスラーム諸王朝が、柔軟な統治体制で独自の文明を繁栄させたことを理解させる。
3	<p>第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国</p> <p>第9章 大交易・大交流の時代</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル帝国がユーラシアの農耕・牧畜両世界を政治的にも統合し世界帝国を築き上げたことを理解する。 ・アジア地域の繁栄が近代世界システムの枠組みと関わり、もたらされていることを理解する。 ・大航海時代に象徴される世界の一体化が近代世界システムを出現させたこと、それに伴う各国の国情を理解する。
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「歴史的な見方、考え方」の一助として、IC教材を活用する。(映像、史料など) ・地理的要因が世界史に影響を与えているのか留意しながら、世界史の基本的な知識を身につけていく。 ・課題の提出、考査のリフレクションを通し、生徒の主体的学習を促す。 ・グループ学習、教員の発問を行なうことで双方向の意見交換ができる授業を展開する。 	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	3単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類進学文系 ・Ⅱ類特別選抜文系
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の各地で生まれた文明の特色を、地理的条件をふまえた上で理解する。 ・世界史の学習を通じ、世界との関わりから日本の歴史を捉えていこうとする視点を養う。 ・2年次に3単位（選択）、3年次に4単位（継続選択）で教科書の内容を学習する。 						
評価 の観 点・ 評価 基準	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容が正しく身についているか。 <p>・教科書・資料を活用し、学習内容を深められているか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容について史料を利用しながら自分の考察を行えているか。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事項について、周囲の人と意見交換でき、周囲の人の意見を参考にして事項の理解を深めているか。 						
使用 教材	<p>教科書：『詳説 世界史』（山川出版社）</p> <p>副教材：『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>世界史へのまなざし1・2</p> <p>第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成</p> <p>第1章 文明の成立と古代文明の特質</p> <p>第2章 中央ユーラシアと東アジア世界</p> <p>第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・人類の誕生から文明の成立にいたるまでの先史時代を概観し、獲得経済・国家の形成に至る過程を認識させる。 ・両地域世界の特質を気候・地形などと関連させて捉えるとともに、ヨーロッパ世界の原型となることを知る。 ・独自の文明世界を形成した南アジア世界の特色を理解させ、同時に他地域への影響もつかませる。 ・乾燥した北と湿潤な南という二つの農耕世界を漢字文化が結びつけ、統一王朝が成立したことを理解させる。 ・遊牧民とオアシス民が共存するこの世界が諸地域をつなぎ、その役割を担った騎馬遊牧民への理解を深める。 			

		<ul style="list-style-type: none"> ・北方民族の活発化と中国の分裂により、大きく変容した東アジア世界の状況を総合的に捉える。
2	<p>第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成</p> <p>第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成</p> <p>第II部 諸地域の交流・再編</p> <p>第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向</p> <p>第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市を背景に生まれたイスラームが、アジア・アフリカの各地に広がり新しい文明を築く様相を捉える。 ・西ヨーロッパ世界の形成を教会・封建社会などを軸にして確認する。また、ビザンツ世界がスラヴ社会へ影響を及ぼしていったことを理解させる。 ・清・オスマン帝国などのイスラーム諸王朝が、柔軟な統治体制で独自の文明を繁栄させたことを理解させる。
3	<p>第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国</p> <p>第9章 大交易・大交流の時代</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル帝国がユーラシアの農耕・牧畜両世界を政治的にも統合し世界帝国を築き上げたことを理解する。 ・アジア地域の繁栄が近代世界システムの枠組みと関わり、もたらされていることを理解する。 ・大航海時代に象徴される世界の一体化が近代世界システムを出現させたこと、それに伴う各国の国情を理解する。
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「歴史的な見方、考え方」の一助として、IC教材を活用する。(映像、史料など) ・地理的要因が世界史に影響を与えているのか留意しながら、世界史の基本的な知識を身につけていく。 ・課題の提出、考査のリフレクションを通し、生徒の主体的学習を促す。 ・グループ学習、教員の発問を行なうことで双方向の意見交換ができる授業を展開する。 	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	公民	科目	公共	単位数	2単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類 進学・特選文系
到達目標	幸福、正義、公正など、人間と社会のあり方についての見方、考え方をはたらかせ、現代社会の諸課題の解決に向け、社会に参画する主体として自立し、他者と協働して考察できる資質を身につける。そのために倫理、社会、政治、法、経済、国際関係の諸課題を知り、それに対する主体的な意見をもてるように努める。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な用語を理論的、体系的に理解すると同時に、その語句を自らの言葉で説明し、議論などに正しく使うことができるか。						
	【思考・判断・表現】 データをグラフや表などからしっかりと読みとり、客観的にそれを理解し、自分の体験などを振り返りながら、自分なりの意見につなげることができるか。そしてそれを、正しい知識や表現を使いながら、客観的に伝えることができるか。						
	【主体的に取り組む態度】 一方通行の授業を受けるのではなく、発問等に対し、他者の判断に流されるのではなく、自分なりの意見を持つことができるか。また一つの判断に固執せず、様々な意見を聴きながら多面的に考察し、積極的に新しい発想で物事を考えようとしているか。						
使用教材	教科書…公共（第一学習社） 副教材…クローズアップ公共2024						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第2章 政治的な主体となる私たち 主題4 政治参加と公正な世論の形成 第3章 経済的な主体となる私たち 主題8 雇用と労働問題			民主政治の根幹は主権者である国民の意志であること、そして、選挙を通じて政治参加することの重要性を理解する。 労働力不足、雇用の流動化が進む日本において、その課題をつかみ、解決方法について思考する。			
2	主題9 社会の変化と職業観 主題10 市場経済の機能と限界			経済のしくみや基礎を学び、技術革新や市場経済、経済指標などについて理解し、マクロ経済の基礎を理解する。			
3	主題11 金融のはたらき 主題12 財政の役割と社会保障			金融、財政さらに少子高齢化が現象するなかでの社会保障問題に触れ、ミクロ経済の基礎を理解する。			
学習上の留意点	一方的な知識伝達型の授業にならないように留意する。 ニュースなどを学習上では随意取り上げ、机上の学習ではなく、現実の理解をうながすものであることを教師が心掛け、生徒へも意識付けをさせる。 議論の中においては、異なる意見であったとしても、それを一方的に否定するのではなく、その考えに至った理由などを理解させることにより多角的に考え、より自分の意見を深化させていくことができるような指導を心がける。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4 単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅰ類進学文系	
到達目標	方程式・式と証明、図形と方程式、いろいろな関数、及び微分法・積分法の考え方を理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。							
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。							
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。							
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。							
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。							
使用教材	教科書	啓林館「深進数学Ⅱ」（数Ⅱ 708）						
	傍用問題集	啓林館「定着演習編 Axis 数学Ⅱ」						
	参考書	啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ」						
学期	学習内容			学習のねらい				
1	第1章 式と証明・高次方程式 第1節 多項式の乗法・除法と分数式			「数学Ⅰ」で学んだ整式の加法・減法・乗法に続き、その除法を理解する。また、分母に文字を含む分数式の計算を理解する。				
	第2節 式と証明 第3節 高次方程式			等式・不等式の証明方法について学び、基本的な等式・不等式の証明を理解する。 方程式の解の判別、分類について学び、解と係数の関係を利用して、方程式の解の有り様を理解する。また、因数定理を利用して、高次方程式を理解する。				
	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線			2点間の距離の公式や内分点・外分点の座標計算を利用して、平面図形の性質や関係を調べる。また、直線の方程式について学び、2直線の位置関係を調べたり、点と直線の距離の求め方を理解する。				
	第2節 円と直線 第3節 軌跡と領域			円の方程式について学び、円と直線、円と円との位置関係を理解する。また、円の接線の方程式の求め方を理解する。 与えられた条件を満たす点の集合としての軌跡の方程式を理解する。また、不等式で表され				

2	<p>第4章 指数関数・対数関数 第1節 指数と指数関数</p> <p>第2節 対数と対数関数</p>	<p>た領域の図示を理解する。</p> <p>指数法則、累乗根を理解する。指数関数の基本的な性質を理解し、指数関数のグラフが描け、グラフを使って方程式や不等式を解く。</p> <p>対数と指数の関係を理解し、対数関数のグラフが描け、グラフを使って方程式や不等式を解く。また、常用対数を利用し、数の桁数などを求められることを理解する。</p>
3	<p>第5章 微分法・積分法 第1節 微分係数と導関数</p> <p>第2節 導関数の応用</p> <p>第3節 積分</p>	<p>平均変化率や微分係数の意味を理解する。また、導関数の定義を理解し、整関数の導関数を理解する。</p> <p>導関数を利用して、関数の増減、極値、最大値・最小値を調べ、関数のグラフを描く。また、関数のグラフを利用して、方程式の実数解の個数や不等式について理解する。</p> <p>微分法の逆演算として不定積分を理解する。また、定積分の計算を理解する。さらに、定積分を利用して放物線や直線で囲まれた図形の面積の計算を理解する。</p>
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Axis を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自分で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、Axis の演習と応用を中心に授業で扱いますが、必須の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅰ類進学理系
到達目標	方程式・式と証明、図形と方程式、いろいろな関数、及び微分法・積分法の考え方を理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学Ⅱ」（数Ⅱ708） 傍用問題集 啓林館「定着演習編 Axis 数学Ⅱ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ+B+C（ベクトル）」 補助教材として深進数学Ⅲの教科書、傍用問題集、参考書を用いることもある。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>第1章 式と証明・高次方程式</p> <p>第1節 多項式の乗法・除法と分数式</p> <p>第2節 式と証明</p> <p>第3節 高次方程式</p> <p>第2章 図形と方程式</p> <p>第1節 点と直線</p> <p>第2節 円と直線</p>			<p>「数学Ⅰ」で学んだ整式の加法・減法・乗法に続き、その除法を理解する。また、分母に文字を含む分数式の計算を理解する。</p> <p>等式・不等式の証明方法について学び、基本的な等式・不等式の証明を理解する。</p> <p>方程式の解の判別、分類について学び、解と係数の関係を利用して、方程式の解の有り様を理解する。また、因数定理を利用して、高次方程式を理解する。</p> <p>2点間の距離の公式や内分点・外分点の座標計算を利用して、平面図形の性質や関係を調べる。また、直線の方程式について学び、2直線の位置関係を調べたり、点と直線の距離の求め方を理解する。</p> <p>円の方程式について学び、円と直線、円と円との位置関係を理解する。また、円の接線の方程式の求め方を理解する。</p>			

2	<p>第3節 軌跡と領域</p> <p>第4章 指数関数・対数関数 第1節 指数と指数関数</p> <p>第2節 対数と対数関数</p> <p>第5章 微分法・積分法 第1節 微分係数と導関数</p> <p>第2節 導関数の応用</p> <p>第3節 積分</p>	<p>与えられた条件を満たす点の集合としての軌跡の方程式を理解する。また、不等式で表された領域の図示を理解する。</p> <p>指数法則、累乗根を理解する。指数関数の基本的な性質を理解し、指数関数のグラフが描け、グラフを使って方程式や不等式を解く。</p> <p>対数と指数の関係を理解し、対数関数のグラフが描け、グラフを使って方程式や不等式を解く。また、常用対数を利用し、数の桁数などを求められることを理解する。</p> <p>平均変化率や微分係数の意味を理解する。また、導関数の定義を理解し、整関数の導関数を理解する。</p> <p>導関数を利用して、関数の増減、極値、最大値・最小値を調べ、関数のグラフを描く。また、関数のグラフを利用して、方程式の実数解の個数や不等式について理解する。</p> <p>微分法の逆演算として不定積分を理解する。また、定積分の計算を理解する。さらに、定積分を利用して放物線や直線で囲まれた図形の面積の計算を理解する。</p>
3	<p>【数学Ⅲ】</p> <p>第1章 数列の極限 第1節 無限数列</p> <p>第2節 無限級数</p> <p>第2章 関数とその極限 第1節 分数関数と無理関数</p>	<p>数列の極限に関して、収束、発散、振動の意味や、極限値の性質、はさみうちの原理などの基本事項を理解し、分数列や無理数列などの基本的な場合に極限値が求められるようにする。続いて、特に応用範囲の広い無限等比数列の極限についてまとめる。さらに、漸化式によって定義される数列の極限を考察し、数列の極限に関する理解を一層深めることとする。</p> <p>無限級数の部分和とその極限値について考察し、無限級数の和を定義する。また級数の中で、最も重要な無限等比級数についてその収束・発散をまとめ、循環小数を分数で表すことなどの具体的な問題の解決に活用できるようにする。</p> <p>分数・無理関数のグラフを描き、それを利用して分数・無理方程式、分数・無理不等式を解く。関数と逆関数の関係を理解し、合成関数についても考察する。</p>

第2節 関数の極限と連続性

片側からの極限など、より詳しく極限を調べて、関数の極限值の性質についてまとめる。
 $\sin \theta / \theta$ の極限を学習し、絶対値を使った三角関数の評価も学習し、いろいろな三角関数の極限が求められるようにする。また、ガウス記号で表される関数から、関数が連続であることの意味を理解し、それと関連して、中間値の定理などの重要な連続関数の性質を認識し、方程式の実数解の存在する区間を調べる場合などに活用できるようにする。

※進捗状況及び学習状況により進捗が前後することがあります。

学習上の留意点

授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Axis を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自分で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。

演習については、Axis の演習と応用を中心に授業で扱いますが、必須の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	3単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅱ類進学文系
到達目標	方程式・式と証明、図形と方程式、いろいろな関数、及び微分法・積分法の考え方を理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学Ⅱ」(数Ⅱ708) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅱ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ+B+ベクトル(数学C)」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 式と証明・高次方程式 第1節 多項式の乗法・除法と分数式 第2節 式と証明 第3節 高次方程式			「数学Ⅰ」で学んだ整式の加法・減法・乗法に続き、その除法を理解する。また、分母に文字を含む分数式の計算を理解する。 等式・不等式の証明方法について学び、基本的な等式・不等式の証明を理解する。 方程式の解の判別、分類について学び、解と係数の関係を利用して、方程式の解の有り様を理解する。また、因数定理を利用して、高次方程式を理解する。			
	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線			2点間の距離の公式や内分点・外分点の座標計算を利用して、平面図形の性質や関係を調べる。また、直線の方程式について学び、2直線の位置関係を調べたり、点と直線の距離の求め方を理解する。			
	第2節 円と直線 第3節 軌跡と領域			円の方程式について学び、円と直線、円と円との位置関係を理解する。また、円の接線の方程式の求め方を理解する。 与えられた条件を満たす点の集合としての軌跡の方程式を理解する。また、不等式で表された領域の図示を理解する。			

2	<p>第4章 指数関数・対数関数</p> <p>第1節 指数と指数関数</p> <p>第2節 対数と対数関数</p>	<p>指数法則、累乗根を理解する。指数関数の基本的な性質を理解し、指数関数のグラフが描け、グラフを使って方程式や不等式を解く。</p> <p>対数と指数の関係を理解し、対数関数のグラフが描け、グラフを使って方程式や不等式を解く。また、常用対数を利用し、数の桁数などを求められることを理解する。</p>
3	<p>第5章 微分法・積分法</p> <p>第1節 微分係数と導関数</p> <p>第2節 導関数の応用</p> <p>第3節 積分</p>	<p>平均変化率や微分係数の意味を理解する。また、導関数の定義を理解し、整関数の導関数を理解する。</p> <p>導関数を利用して、関数の増減、極値、最大値・最小値を調べ、関数のグラフを描く。また、関数のグラフを利用して、方程式の実数解の個数や不等式について理解する。</p> <p>微分法の逆演算として不定積分を理解する。また、定積分の計算を理解する。さらに、定積分を利用して放物線や直線で囲まれた図形の面積の計算を理解する。</p>
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	3単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅱ類進学理系
到達目標	方程式・式と証明、図形と方程式、いろいろな関数、及び微分法・積分法の考え方を理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学Ⅱ」（数Ⅱ708） 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅱ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ+B+ベクトル（数学C）」 補助教材として深進数学Ⅲの教科書、傍用問題集、参考書を用いることもある。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>第1章 式と証明・高次方程式</p> <p>第1節 多項式の乗法・除法と分数式</p> <p>第2節 式と証明</p> <p>第3節 高次方程式</p> <p>第2章 図形と方程式</p> <p>第1節 点と直線</p> <p>第2節 円と直線</p> <p>第3節 軌跡と領域</p>			<p>「数学Ⅰ」で学んだ整式の加法・減法・乗法に続き、その除法を理解する。また、分母に文字を含む分数式の計算を理解する。</p> <p>等式・不等式の証明方法について学び、基本的な等式・不等式の証明を理解する。</p> <p>方程式の解の判別、分類について学び、解と係数の関係を利用して、方程式の解の有り様を理解する。また、因数定理を利用して、高次方程式を理解する。</p> <p>2点間の距離の公式や内分点・外分点の座標計算を利用して、平面図形の性質や関係を調べる。また、直線の方程式について学び、2直線の位置関係を調べたり、点と直線の距離の求め方を理解する。</p> <p>円の方程式について学び、円と直線、円と円との位置関係を理解する。また、円の接線の方程式の求め方を理解する。</p> <p>与えられた条件を満たす点の集合としての軌跡の方程式を理解する。また、不等式で表され</p>			

		た領域の図示を理解する。
2	<p>第4章 指数関数・対数関数 第1節 指数と指数関数</p> <p>第2節 対数と対数関数</p> <p>第5章 微分法・積分法 第1節 微分係数と導関数</p> <p>第2節 導関数の応用</p> <p>第3節 積分</p>	<p>指数法則、累乗根を理解する。指数関数の基本的な性質を理解し、指数関数のグラフが描け、グラフを使って方程式や不等式を解く。</p> <p>対数と指数の関係を理解し、対数関数のグラフが描け、グラフを使って方程式や不等式を解く。また、常用対数を利用し、数の桁数などを求められることを理解する。</p> <p>平均変化率や微分係数の意味を理解する。また、導関数の定義を理解し、整関数の導関数を理解する。</p> <p>導関数を利用して、関数の増減、極値、最大値・最小値を調べ、関数のグラフを描く。また、関数のグラフを利用して、方程式の実数解の個数や不等式について理解する。</p> <p>微分法の逆演算として不定積分を理解する。また、定積分の計算を理解する。さらに、定積分を利用して放物線や直線で囲まれた図形の面積の計算を理解する。</p>
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に書き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	3単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅱ類特選文系
到達目標	方程式・式と証明、図形と方程式、いろいろな関数、及び微分法・積分法の考え方を理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学Ⅱ」(数Ⅱ708) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅱ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ+B+ベクトル(数学C)」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 式と証明・高次方程式 第1節 多項式の乗法・除法と分数式 第2節 式と証明 第3節 高次方程式			「数学Ⅰ」で学んだ整式の加法・減法・乗法に続き、その除法を理解する。また、分母に文字を含む分数式の計算を理解する。 等式・不等式の証明方法について学び、基本的な等式・不等式の証明を理解する。 方程式の解の判別、分類について学び、解と係数の関係を利用して、方程式の解の有り様を理解する。また、因数定理を利用して、高次方程式を理解する。 2点間の距離の公式や内分点・外分点の座標計算を利用して、平面図形の性質や関係を調べる。また、直線の方程式について学び、2直線の位置関係を調べたり、点と直線の距離の求め方を理解する。			
	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円と直線 第3節 軌跡と領域			円の方程式について学び、円と直線、円と円との位置関係を理解する。また、円の接線の方程式の求め方を理解する。 与えられた条件を満たす点の集合としての軌跡の方程式を理解する。また、不等式で表された領域の図示を理解する。			

2	<p>第4章 指数関数・対数関数 第1節 指数と指数関数</p> <p>第2節 対数と対数関数</p>	<p>指数法則、累乗根を理解する。指数関数の基本的な性質を理解し、指数関数のグラフが描け、グラフを使って方程式や不等式を解く。</p> <p>対数と指数の関係を理解し、対数関数のグラフが描け、グラフを使って方程式や不等式を解く。また、常用対数を利用し、数の桁数などを求められることを理解する。</p>
3	<p>第5章 微分法・積分法 第1節 微分係数と導関数</p> <p>第2節 導関数の応用</p> <p>第3節 積分</p>	<p>平均変化率や微分係数の意味を理解する。また、導関数の定義を理解し、整関数の導関数を理解する。</p> <p>導関数を利用して、関数の増減、極値、最大値・最小値を調べ、関数のグラフを描く。また、関数のグラフを利用して、方程式の実数解の個数や不等式について理解する。</p> <p>微分法の逆演算として不定積分を理解する。また、定積分の計算を理解する。さらに、定積分を利用して放物線や直線で囲まれた図形の面積の計算を理解する。</p>
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題や章末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画 (シラバス)

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	3単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅱ類特選理系
到達目標	方程式・式と証明、図形と方程式、いろいろな関数、及び微分法・積分法の考え方を理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学Ⅱ」(数Ⅱ708) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅱ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ+B+ベクトル(数学C)」 補助教材として深進数学Ⅲの教科書、傍用問題集、参考書を用いることもある。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>第1章 式と証明・高次方程式</p> <p>第1節 多項式の乗法・除法と分数式</p> <p>第2節 式と証明</p> <p>第3節 高次方程式</p> <p>第2章 図形と方程式</p> <p>第1節 点と直線</p> <p>第2節 円と直線</p> <p>第3節 軌跡と領域</p>			<p>「数学Ⅰ」で学んだ整式の加法・減法・乗法に続き、その除法を理解する。また、分母に文字を含む分数式の計算を理解する。</p> <p>等式・不等式の証明方法について学び、基本的な等式・不等式の証明を理解する。</p> <p>方程式の解の判別、分類について学び、解と係数の関係を利用して、方程式の解の有り様を理解する。また、因数定理を利用して、高次方程式を理解する。</p> <p>2点間の距離の公式や内分点・外分点の座標計算を利用して、平面図形の性質や関係を調べる。また、直線の方程式について学び、2直線の位置関係を調べたり、点と直線の距離の求め方を理解する。</p> <p>円の方程式について学び、円と直線、円と円との位置関係を理解する。また、円の接線の方程式の求め方を理解する。</p> <p>与えられた条件を満たす点の集合としての軌跡の方程式を理解する。また、不等式で表され</p>			

		た領域の図示を理解する。
2	<p>第4章 指数関数・対数関数 第1節 指数と指数関数</p> <p>第2節 対数と対数関数</p> <p>第5章 微分法・積分法 第1節 微分係数と導関数</p> <p>第2節 導関数の応用</p> <p>第3節 積分</p>	<p>指数法則、累乗根を理解する。指数関数の基本的な性質を理解し、指数関数のグラフが描け、グラフを使って方程式や不等式を解く。</p> <p>対数と指数の関係を理解し、対数関数のグラフが描け、グラフを使って方程式や不等式を解く。また、常用対数を利用し、数の桁数などを求められることを理解する。</p> <p>平均変化率や微分係数の意味を理解する。また、導関数の定義を理解し、整関数の導関数を理解する。</p> <p>導関数を利用して、関数の増減、極値、最大値・最小値を調べ、関数のグラフを描く。また、関数のグラフを利用して、方程式の実数解の個数や不等式について理解する。</p> <p>微分法の逆演算として不定積分を理解する。また、定積分の計算を理解する。さらに、定積分を利用して放物線や直線で囲まれた図形の面積の計算を理解する。</p>
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に書き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題や章末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅱ類進学理系
到達目標	<p>いろいろな関数、関数の極限、数列の極限について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばす。数学的な見方や考え方の有用性を理解できるようにすることを目標とする。授業では教科書内容だけでなく、応用問題にもふれ、発展的な学習を行い、早くから入試に対応できる力を養成する。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学Ⅲ」（数Ⅲ 707） 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅲ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅲ + C（複素数平面・式と曲線）」 補助教材として深進数学Ⅱの教科書、傍用問題集、参考書を用いることもある。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
3	<p>第1章 数列の極限 第1節 無限数列</p> <p>第2節 無限級数</p> <p>第2章 関数とその極限 第1節 分数関数と無理関数</p> <p>第2節 関数の極限と連続性</p>			<p>数列の極限に関して、収束、発散、振動の意味や、極限値の性質、はさみうちの原理などの基本事項を理解し、分数列や無理数列などの基本的な場合に極限値が求められるようにする。続いて、特に応用範囲の広い無限等比数列の極限についてまとめる。さらに、漸化式によって定義される数列の極限を考察し、数列の極限に関する理解を一層深めることとする。</p> <p>無限級数の部分和とその極限値について考察し、無限級数の和を定義する。また級数の中で、最も重要な無限等比級数についてその収束・発散をまとめ、循環小数を分数で表すことなどの具体的な問題の解決に活用できるようにする。</p> <p>分数・無理関数のグラフを描き、それを利用して分数・無理方程式、分数・無理不等式を解く。関数と逆関数の関係を理解し、合成関数についても考察する。</p> <p>片側からの極限など、より詳しく極限を調べて、関数の極限値の性質についてまとめる。 $\sin \theta / \theta$ の極限を学習し、絶対値を使った三角</p>			

<p>※進捗状況及び学習状況により進捗が前後することがあります。</p>	<p>関数の評価も学習し、いろいろな三角関数の極限が求められるようにする。また、ガウス記号で表される関数から、関数が連続であることの意味を理解し、それと関連して、中間値の定理などの重要な連続関数の性質を認識し、方程式の実数解の存在する区間を調べる場合などに活用できるようにする。</p>
<p>学習上の留意点</p>	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅱ類特選理系
到達目標	<p>いろいろな関数、関数の極限、数列の極限について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばす。数学的な見方や考え方の有用性を理解できるようにすることを目標とする。授業では教科書内容だけでなく、応用問題にもふれ、発展的な学習を行い、早くから入試に対応できる力を養成する。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学Ⅲ」（数Ⅲ 707） 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅲ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅲ + C（複素数平面・式と曲線）」 補助教材として深進数学Ⅱの教科書、傍用問題集、参考書を用いることもある。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
3	<p>第1章 数列の極限 第1節 無限数列</p> <p>第2節 無限級数</p> <p>第2章 関数とその極限 第1節 分数関数と無理関数</p> <p>第2節 関数の極限と連続性</p>			<p>数列の極限に関して、収束、発散、振動の意味や、極限値の性質、はさみうちの原理などの基本事項を理解し、分数列や無理数列などの基本的な場合に極限値が求められるようにする。続いて、特に応用範囲の広い無限等比数列の極限についてまとめる。さらに、漸化式によって定義される数列の極限を考察し、数列の極限に関する理解を一層深めることとする。</p> <p>無限級数の部分和とその極限値について考察し、無限級数の和を定義する。また級数の中で、最も重要な無限等比級数についてその収束・発散をまとめ、循環小数を分数で表すことなどの具体的な問題の解決に活用できるようにする。</p> <p>分数・無理関数のグラフを描き、それを利用して分数・無理方程式、分数・無理不等式を解く。関数と逆関数の関係を理解し、合成関数についても考察する。</p> <p>片側からの極限など、より詳しく極限を調べて、関数の極限値の性質についてまとめる。$\sin \theta / \theta$の極限を学習し、絶対値を使った三角</p>			

<p>※進捗状況及び学習状況により進捗が前後することがあります。</p>	<p>関数の評価も学習し、いろいろな三角関数の極限が求められるようにする。また、ガウス記号で表される関数から、関数が連続であることの意味を理解し、それと関連して、中間値の定理などの重要な連続関数の性質を認識し、方程式の実数解の存在する区間を調べる場合などに活用できるようにする。</p>
<p>学習上の留意点</p>	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に書き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題や章末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学 B	単位数	2 単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅰ類進学理系	
到達目標	<p>数列・統計的な推測について、概念を理解すること、基礎的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培うことなどを目標とする。また、数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を積極的に活用する態度を育てることを目標とする。</p>							
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>							
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>							
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>							
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>							
使用教材	教科書	啓林館「深進数学 B」(数 B 7 0 9)						
	傍用問題集	啓林館「定着演習編 Axis 数学 B」						
	参考書	啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ + B + C (ベクトル)」						
学期	学習内容			学習のねらい				
2	<p>第 1 章 数列 第 1 節 等差数列・等比数列</p> <p>第 2 節 いろいろな数列</p>			<p>数列の一般項の意味を理解し、初項、第 n 項、末項、項数、有限数列、無限数列などの基本用語を理解する。次に、基本となる等差数列と等比数列を学ぶ。第 n 項を n の式で表し、第 n 項までの和の公式を導く。その際に用いる考え方の良さを理解し、数列の他の問題の解決に応用できるようにする。</p> <p>和の記号 Σ を導入して、その性質をまとめる。続いて自然数の和、平方の和、立方の和の公式を導き、それらと共に、記号 Σ によって様々な数列の和が見通しよく計算できることを理解する。次に、階差数列から元の数列の一般項を求める方法を学ぶ。特に、階差数列が等差数列や等比数列となるような簡単な場合について考察して理解の定着を図る。さらに、和が先に与えられた場合に、その数列の第 n 項を求めることを通して、和と第 n 項の間の一般的な関係を理解する。また、分数列について、部分分数分解による和の求め方を学び、その巧妙な考え方の良さを理解して、類似の問題に応用できるようにする。</p>				

	<p>第3節 漸化式と数学的帰納法</p>	<p>漸化式の意味を理解する。続いて、漸化式から一般項を導く技法を学ぶ。ここでは、等差数列、等比数列を表す漸化式から始めて、隣接二項間の漸化式の解法を学ぶ。</p>
<p>3</p>	<p>第2章 統計的な推測 第1節 確率分布</p> <p>第2節 正規分布</p> <p>第3節 区間推定と仮説検定</p>	<p>確率変数や確率分布の意味を理解する。確率変数の期待値、分散、標準偏差やその性質について理解を深め、確率分布の特徴を考察できるようにする。また、二項分布に関する特徴や性質を理解する。</p> <p>連続型確率変数や確率密度関数に関する用語を理解し、その期待値、分散、標準偏差を求められるようにする。また、正規分布の定義及び、その性質を理解する。</p> <p>区間推定や、正規分布を利用した母平均の仮説検定の考え方を利用して、統計的な推測ができるようにする。</p>
<p>学習上の留意点</p>	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Axis を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、Axis の演習と応用を中心に授業で扱いますが、必須の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学B	単位数	2単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅱ類進学文系
到達目標	<p>数列・統計的な推測について、概念を理解すること、基礎的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培うことなどを目標とする。また、数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を積極的に活用する態度を育てることを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学B」(数B709) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ+B+ベクトル(数学C)」</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
2	<p>第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列</p> <p>第2節 いろいろな数列</p>			<p>数列の一般項の意味を理解し、初項、第n項、末項、項数、有限数列、無限数列などの基本用語を理解する。次に、基本となる等差数列と等比数列を学ぶ。第n項をnの式で表し、第n項までの和の公式を導く。その際に用いる考え方の良さを理解し、数列の他の問題の解決に応用できるようにする。</p> <p>和の記号Σを導入して、その性質をまとめる。続いて自然数の和、平方の和、立方の和の公式を導き、それらと共に、記号Σによって様々な数列の和が見通しよく計算できることを理解する。次に、階差数列から元の数列の一般項を求める方法を学ぶ。特に、階差数列が等差数列や等比数列となるような簡単な場合について考察して理解の定着を図る。さらに、和が先に与えられた場合に、その数列の第n項を求めることを通して、和と第n項の間の一般的な関係を理解する。また、分数列について、部分分数分解による和の求め方を学び、その巧妙な考え方の良さを理解して、類似の問題に応用できるようにする。</p>			

	第3節 漸化式と数学的帰納法	漸化式の意味を理解する。続いて、漸化式から一般項を導く技法を学ぶ。ここでは、等差数列、等比数列を表す漸化式から始めて、隣接二項間の漸化式の解法を学ぶ。
3	<p>第2章 統計的な推測</p> <p>第1節 確率分布</p> <p>第2節 正規分布</p> <p>第3節 区間推定と仮説検定</p>	<p>確率変数や確率分布の意味を理解する。確率変数の期待値、分散、標準偏差やその性質について理解を深め、確率分布の特徴を考察できるようにする。また、二項分布に関する特徴や性質を理解する。</p> <p>連続型確率変数や確率密度関数に関する用語を理解し、その期待値、分散、標準偏差を求められるようにする。また、正規分布の定義及び、その性質を理解する。</p> <p>区間推定や、正規分布を利用した母平均の仮説検定の考え方を利用して、統計的な推測をできるようにする。</p>
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学B	単位数	2単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅱ類進学理系
到達目標	<p>数列・統計的な推測について、概念を理解すること、基礎的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培うことなどを目標とする。また、数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を積極的に活用する態度を育てることを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学B」(数B709) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ+B+ベクトル(数学C)」</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
2	<p>第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列</p> <p>第2節 いろいろな数列</p>			<p>数列の一般項の意味を理解し、初項、第n項、末項、項数、有限数列、無限数列などの基本用語を理解する。次に、基本となる等差数列と等比数列を学ぶ。第n項をnの式で表し、第n項までの和の公式を導く。その際に用いる考え方の良さを理解し、数列の他の問題の解決に応用できるようにする。</p> <p>和の記号Σを導入して、その性質をまとめる。続いて自然数の和、平方の和、立方の和の公式を導き、それらと共に、記号Σによって様々な数列の和が見通しよく計算できることを理解する。次に、階差数列から元の数列の一般項を求める方法を学ぶ。特に、階差数列が等差数列や等比数列となるような簡単な場合について考察して理解の定着を図る。さらに、和が先に与えられた場合に、その数列の第n項を求めることを通して、和と第n項の間の一般的な関係を理解する。また、分数列について、部分分数分解による和の求め方を学び、その巧みな考え方の良さを理解して、類似の問題に応用できるようにする。</p>			

	<p>第3節 漸化式と数学的帰納法</p>	<p>漸化式の意味を理解する。続いて、漸化式から一般項を導く技法を学ぶ。ここでは、等差数列、等比数列を表す漸化式から始めて、隣接二項間の漸化式の解法を学ぶ。</p>
<p>3</p>	<p>第2章 統計的な推測 第1節 確率分布</p> <p>第2節 正規分布</p> <p>第3節 区間推定と仮説検定</p>	<p>確率変数や確率分布の意味を理解する。確率変数の期待値、分散、標準偏差やその性質について理解を深め、確率分布の特徴を考察できるようにする。また、二項分布に関する特徴や性質を理解する。</p> <p>連続型確率変数や確率密度関数に関する用語を理解し、その期待値、分散、標準偏差を求められるようにする。また、正規分布の定義及び、その性質を理解する。</p> <p>区間推定や、正規分布を利用した母平均の仮説検定の考え方を利用して、統計的な推測をできるようにする。</p>
<p>学習上の留意点</p>	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学B	単位数	2単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅱ類特選文系
到達目標	<p>数列・統計的な推測について、概念を理解すること、基礎的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培うことなどを目標とする。また、数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を積極的に活用する態度を育てることを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学B」(数B709) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ+B+ベクトル(数学C)」</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
2	<p>第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列</p> <p>第2節 いろいろな数列</p>			<p>数列の一般項の意味を理解し、初項、第n項、末項、項数、有限数列、無限数列などの基本用語を理解する。次に、基本となる等差数列と等比数列を学ぶ。第n項をnの式で表し、第n項までの和の公式を導く。その際に用いる考え方の良さを理解し、数列の他の問題の解決に応用できるようにする。</p> <p>和の記号Σを導入して、その性質をまとめる。続いて自然数の和、平方の和、立方の和の公式を導き、それらと共に、記号Σによって様々な数列の和が見通しよく計算できることを理解する。次に、階差数列から元の数列の一般項を求める方法を学ぶ。特に、階差数列が等差数列や等比数列となるような簡単な場合について考察して理解の定着を図る。さらに、和が先に与えられた場合に、その数列の第n項を求めることを通して、和と第n項の間の一般的な関係を理解する。また、分数列について、部分分数分解による和の求め方を学び、その巧妙な考え方の良さを理解して、類似の問題に応用できるようにする。</p>			

	<p>第3節 漸化式と数学的帰納法</p>	<p>漸化式の意味を理解する。続いて、漸化式から一般項を導く技法を学ぶ。ここでは、等差数列、等比数列を表す漸化式から始めて、隣接二項間の漸化式の解法を学ぶ。</p>
<p>3</p>	<p>第2章 統計的な推測 第1節 確率分布</p> <p>第2節 正規分布</p> <p>第3節 区間推定と仮説検定</p>	<p>確率変数や確率分布の意味を理解する。確率変数の期待値、分散、標準偏差やその性質について理解を深め、確率分布の特徴を考察できるようにする。また、二項分布に関する特徴や性質を理解する。</p> <p>連続型確率変数や確率密度関数に関する用語を理解し、その期待値、分散、標準偏差を求められるようにする。また、正規分布の定義及び、その性質を理解する。</p> <p>区間推定や、正規分布を利用した母平均の仮説検定の考え方を利用して、統計的な推測をできるようにする。</p>
<p>学習上の留意点</p>	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題や章末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学B	単位数	2単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅱ類特選理系
到達目標	<p>数列・統計的な推測について、概念を理解すること、基礎的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培うことなどを目標とする。また、数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を積極的に活用する態度を育てることを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学B」(数B709) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ+B+ベクトル(数学C)」</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
2	<p>第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列</p> <p>第2節 いろいろな数列</p>			<p>数列の一般項の意味を理解し、初項、第n項、末項、項数、有限数列、無限数列などの基本用語を理解する。次に、基本となる等差数列と等比数列を学ぶ。第n項をnの式で表し、第n項までの和の公式を導く。その際に用いる考え方の良さを理解し、数列の他の問題の解決に応用できるようにする。</p> <p>和の記号Σを導入して、その性質をまとめる。続いて自然数の和、平方の和、立方の和の公式を導き、それらと共に、記号Σによって様々な数列の和が見通しよく計算できることを理解する。次に、階差数列から元の数列の一般項を求める方法を学ぶ。特に、階差数列が等差数列や等比数列となるような簡単な場合について考察して理解の定着を図る。さらに、和が先に与えられた場合に、その数列の第n項を求めることを通して、和と第n項の間の一般的な関係を理解する。また、分数列について、部分分数分解による和の求め方を学び、その巧妙な考え方の良さを理解して、類似の問題に応用できるようにする。</p>			

	第3節 漸化式と数学的帰納法	漸化式の意味を理解する。続いて、漸化式から一般項を導く技法を学ぶ。ここでは、等差数列、等比数列を表す漸化式から始めて、隣接二項間の漸化式の解法を学ぶ。
3	<p>第2章 統計的な推測 第1節 確率分布</p> <p>第2節 正規分布</p> <p>第3節 区間推定と仮説検定</p>	<p>確率変数や確率分布の意味を理解する。確率変数の期待値、分散、標準偏差やその性質について理解を深め、確率分布の特徴を考察できるようにする。また、二項分布に関する特徴や性質を理解する。</p> <p>連続型確率変数や確率密度関数に関する用語を理解し、その期待値、分散、標準偏差を求められるようにする。また、正規分布の定義及び、その性質を理解する。</p> <p>区間推定や、正規分布を利用した母平均の仮説検定の考え方を利用して、統計的な推測をできるようにする。</p>
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に書き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題や章末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学 C	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅰ類進学理系
到達目標	ベクトルについて、概念を理解すること、基礎的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培うことなどを目標とする。また、数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を積極的に活用する態度を育てることを目標とする。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学 C」(数 C 7 0 7) 傍用問題集 啓林館「定着演習編 Axis 数学 C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ + B + C (ベクトル)」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 ベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと図形			平面上のベクトルについて、有向線分を利用した幾何ベクトルによって、その意味、相等、加法、減法および実数倍について理解する。続いて、座標平面上にベクトルを置き、ベクトルを成分で表して、いわゆる計量ベクトルを導入する。さらに、ベクトルの内積の意味や基本的な性質を学び、平面図形の性質の考察に応用する。 位置ベクトルの考えを理解し、図形の性質の考察においてベクトルが利用できることを認識する。また、ベクトル方程式を取り扱い、直線や線分、およびそれで囲まれた領域などの平面図形をベクトルを用いて表現できるようにする。			
2	第3節 空間のベクトル			空間座標を導入して、空間内の点を3つの実数の組として表す。続いて空間においてもベクトルが定義され、内積を含むベクトルの演算、位置ベクトルの考えなどが、平面の場合と同様に考察することができることを理解する。			

学
習
上
の
留
意
点

授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Axis を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に書き直し二度と間違えないようにすることも大切です。

演習については、Axis の演習と応用を中心に授業で扱いますが、必須の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学C	単位数	1単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅱ類進学文系
到達目標	ベクトルについて、概念を理解すること、基礎的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培うことなどを目標とする。また、数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を積極的に活用する態度を育てることを目標とする。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学C」(数C707) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ+B+ベクトル(数学C)」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 ベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと図形			平面上のベクトルについて、有向線分を利用した幾何ベクトルによって、その意味、相等、加法、減法および実数倍について理解する。続いて、座標平面上にベクトルを置き、ベクトルを成分で表して、いわゆる計量ベクトルを導入する。さらに、ベクトルの内積の意味や基本的な性質を学び、平面図形の性質の考察に応用する。 位置ベクトルの考えを理解し、図形の性質の考察においてベクトルが利用できることを認識する。また、ベクトル方程式を取り扱い、直線や線分、およびそれで囲まれた領域などの平面図形をベクトルを用いて表現できるようにする。			
2	第3節 空間のベクトル			空間座標を導入して、空間内の点を3つの実数の組として表す。続いて空間においてもベクトルが定義され、内積を含むベクトルの演算、位置ベクトルの考えなどが、平面の場合と同様に考察することができることを理解する。			

学
習
上
の
留
意
点

授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。

演習については、節末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学C	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅱ類進学理系
到達目標	ベクトルについて、概念を理解すること、基礎的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培うことなどを目標とする。また、数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を積極的に活用する態度を育てることを目標とする。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学C」(数C707) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅲ+C (複素数平面・式と曲線)」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 ベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと図形			<p>平面上のベクトルについて、有向線分を利用した幾何ベクトルによって、その意味、相等、加法、減法および実数倍について理解する。続いて、座標平面上にベクトルを置き、ベクトルを成分で表して、いわゆる計量ベクトルを導入する。さらに、ベクトルの内積の意味や基本的な性質を学び、平面図形の性質の考察に応用する。</p> <p>位置ベクトルの考えを理解し、図形の性質の考察においてベクトルが利用できることを認識する。また、ベクトル方程式を取り扱い、直線や線分、およびそれで囲まれた領域などの平面図形をベクトルを用いて表現できるようにする。</p>			
2	第3節 空間のベクトル			<p>空間座標を導入して、空間内の点を3つの実数の組として表す。続いて空間においてもベクトルが定義され、内積を含むベクトルの演算、位置ベクトルの考えなどが、平面の場合と同様に考察することができることを理解する。</p>			

学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に書き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>
---------	--

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学C	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅱ類特選文系
到達目標	ベクトルについて、概念を理解すること、基礎的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培うことなどを目標とする。また、数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を積極的に活用する態度を育てることを目標とする。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学C」(数C707) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ+B+ベクトル(数学C)」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 ベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと図形			平面上のベクトルについて、有向線分を利用した幾何ベクトルによって、その意味、相等、加法、減法および実数倍について理解する。続いて、座標平面上にベクトルを置き、ベクトルを成分で表して、いわゆる計量ベクトルを導入する。さらに、ベクトルの内積の意味や基本的な性質を学び、平面図形の性質の考察に応用する。 位置ベクトルの考えを理解し、図形の性質の考察においてベクトルが利用できることを認識する。また、ベクトル方程式を取り扱い、直線や線分、およびそれで囲まれた領域などの平面図形をベクトルを用いて表現できるようにする。			
2	第3節 空間のベクトル			空間座標を導入して、空間内の点を3つの実数の組として表す。続いて空間においてもベクトルが定義され、内積を含むベクトルの演算、位置ベクトルの考えなどが、平面の場合と同様に考察することができることを理解する。			

学
習
上
の
留
意
点

授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。

演習については、節末問題や章末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学C	単位数	1単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅱ類特選理系
到達目標	ベクトルについて、概念を理解すること、基礎的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培うことなどを目標とする。また、数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を積極的に活用する態度を育てることを目標とする。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学C」(数C707) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅲ+C (複素数平面・式と曲線)」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 ベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと図形			平面上のベクトルについて、有向線分を利用した幾何ベクトルによって、その意味、相等、加法、減法および実数倍について理解する。続いて、座標平面上にベクトルを置き、ベクトルを成分で表して、いわゆる計量ベクトルを導入する。さらに、ベクトルの内積の意味や基本的な性質を学び、平面図形の性質の考察に応用する。 位置ベクトルの考えを理解し、図形の性質の考察においてベクトルが利用できることを認識する。また、ベクトル方程式を取り扱い、直線や線分、およびそれで囲まれた領域などの平面図形をベクトルを用いて表現できるようにする。			
2	第3節 空間のベクトル			空間座標を導入して、空間内の点を3つの実数の組として表す。続いて空間においてもベクトルが定義され、内積を含むベクトルの演算、位置ベクトルの考えなどが、平面の場合と同様に考察することができることを理解する。			

学習上の留意点

授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。

演習については、節末問題や章末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	物 理	単位数	3 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅰ類理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、科学的な見方や考え方が養われること。 ・物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目標意識をもって観察・実験などを行い、物理的に探求する能力と態度をもつこと。 ・物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観をもつこと。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの知識を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。提出課題、実験レポート（振り返り）、振り返り評価（リフレクション）等を基準として評価する。</p>						
使用教材	教科書 東京書籍「物理」 副教材 検討中						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1編 さまざまな運動 1章 平面内の運動 2章 剛体のつり合い 3章 運動量 4章 円運動 5章 単振動			<ul style="list-style-type: none"> ・平面運動の速度・加速度について理解する。 ・放物運動について理解する。 ・剛体、力のモーメントについて理解する。 ・剛体にはたらく力の合力、重心について理解する。 ・運動量と力積、反発係数について理解する。 ・運動量保存則について理解する。 ・等速円運動、慣性力、遠心力について理解する。 ・単振動、さまざまな単振動、単振動のエネルギーについて理解する。 			
2	6章 万有引力 7章 気体分子の運動 2編 波 1章 波の伝わり方 2章 音			<ul style="list-style-type: none"> ・惑星の運動とケプラーの法則の関係、万有引力の法則について理解する。 ・気体の性質、気体の法則、気体分子の運動と状態方程式を理解する。 ・熱力学第1法則と気体の状態変化、熱力学第2法則と熱機関について理解する。 ・波の伝わり方をもとに正弦波の式を理解する。 ・波の干渉、反射、屈折、回折について理解する。 ・音波の性質、ドップラー効果について理解する。 			
3	3章 光 3編 電気と磁気 1章 電場と電位			<ul style="list-style-type: none"> ・光の特徴、光のスペクトル、レンズ、鏡などについて理解する。 ・ヤングの実験、回折格子、薄膜、ニュートンリングなど、光の干渉、光の波動性について理解する。クーロンの法則、電場と電位について理解する。電気力線と等電位面、コンデンサーについて理解する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を適宜取り入れながら、自然界の現象に興味をもち、科学的な視点をもって探求しようとする態度を養う。 ・動画を用いて、物理現象を確認し、日常生活における物理の話を通して、興味関心を持たせる。 ・問題集を家庭学習として利用し、課題配信やプリント配布により、学習の定着をはかる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	物 理	単位数	4 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、科学的な見方や考え方が養われること。 ・物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目標意識をもって観察・実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度をもつこと。 ・物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観をもつこと。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの知識を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。提出課題、実験レポート（振り返り）、振り返り評価（リフレクション）等を基準として評価する。						
使用教材	教科書 東京書籍「物理」 副教材 libly 啓林館 物理セット（予定）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1編 さまざまな運動 1章 平面内の運動 2章 剛体のつり合い 3章 運動量 4章 円運動 5章 単振動 6章 万有引力			<ul style="list-style-type: none"> ・平面運動の速度・加速度について理解する。 ・放物運動について理解する。 ・剛体、力のモーメントについて理解する。 ・剛体にはたらく力の合力、重心について理解する。 ・運動量と力積、反発係数について理解する。 ・運動量保存則について理解する。 ・等速円運動、慣性力、遠心力について理解する。 ・単振動、さまざまな単振動、単振動のエネルギーについて理解する。 ・惑星の運動とケプラーの法則の関係、万有引力の法則について理解する。 			
	7章 気体分子の運動 2編 波 1章 波の伝わり方 2章 音 3章 光			<ul style="list-style-type: none"> ・気体の性質、気体の法則、気体分子の運動と状態方程式を理解する。 ・熱力学第1法則と気体の状態変化、熱力学第2法則と熱機関について理解する。 ・波の伝わり方をもとに正弦波の式を理解する。 ・波の干渉、反射、屈折、回折について理解する。 ・音波の性質、ドップラー効果について理解する。 ・光の特徴、光のスペクトル、レンズ、鏡などについて理解する。 ・ヤングの実験、回折格子、薄膜、ニュートンリングなど、光の干渉、光の波動性について理解する。 			
3	3編 電気と磁気 1章 電場と電位 2章 電流			<ul style="list-style-type: none"> ・クーロンの法則、電場と電位について理解する。電気力線と等電位面について理解する。 ・コンデンサーを通して、電場、電位、静電エネルギーなどの電気現象の理解を深める。 ・電流現象、直流回路、キルヒホッフの法則について理解する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を適宜取り入れながら、自然界の現象に興味をもち、科学的な視点をもって探求しようとする態度を養う。 ・動画をを用いて、物理現象を確認し、日常生活における物理の話を通して、興味関心を持たせる。 ・問題集を家庭学習として利用し、課題配信やプリント配布により、学習の定着をはかる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	物 理	単位数	4 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類特理
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、科学的な見方や考え方が養われること。 ・物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目標意識をもって観察・実験などを行い、物理的に探求する能力と態度をもつこと。 ・物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観をもつこと。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの知識を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。提出課題、実験レポート（振り返り）、振り返り評価（リフレクション）等を基準として評価する。</p>						
使用教材	教科書 東京書籍「物理」 副教材 libly 啓林館 物理セット（予定）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1編 さまざまな運動 1章 平面内の運動 2章 剛体のつり合い 3章 運動量 4章 円運動 5章 単振動 6章 万有引力			<ul style="list-style-type: none"> ・平面運動の速度・加速度について理解する。 ・放物運動について理解する。 ・剛体、力のモーメントについて理解する。 ・剛体にはたらく力の合力、重心について理解する。 ・運動量と力積、反発係数について理解する。 ・運動量保存則について理解する。 ・等速円運動、慣性力、遠心力について理解する。 ・単振動、さまざまな単振動、単振動のエネルギーについて理解する。 ・惑星の運動とケプラーの法則の関係、万有引力の法則について理解する。 			
	7章 気体分子の運動 2編 波 1章 波の伝わり方 2章 音 3章 光			<ul style="list-style-type: none"> ・気体の性質、気体の法則、気体分子の運動と状態方程式を理解する。 ・熱力学第1法則と気体の状態変化、熱力学第2法則と熱機関について理解する。 ・波の伝わり方をもとに正弦波の式を理解する。 ・波の干渉、反射、屈折、回折について理解する。 ・音波の性質、ドップラー効果について理解する。 ・光の特徴、光のスペクトル、レンズ、鏡などについて理解する。 ・ヤングの実験、回折格子、薄膜、ニュートンリングなど、光の干渉、光の波動性について理解する。 			
3	3編 電気と磁気 1章 電場と電位 2章 電流			<ul style="list-style-type: none"> ・クーロンの法則、電場と電位について理解する。電気力線と等電位面について理解する。 ・コンデンサーを通して、電場、電位、静電エネルギーなどの電気現象の理解を深める。 ・電流現象、直流回路、キルヒホッフの法則について理解する。 			
	学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を適宜取り入れながら、自然界の現象に興味をもち、科学的な視点をもって探求しようとする態度を養う。 ・動画を用いて、物理現象を確認し、日常生活における物理の話を通して、興味関心を持たせる。 ・問題集を家庭学習として利用し、課題配信やプリント配布により、学習の定着をはかる。 					

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	2 単位	履修学年	Ⅱ 年 I 類文系
到達目標	物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせるとともに、目的意識をもって観察・実験等を行い、化学的に探究する能力と態度を育て、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「新編化学基礎」 副教材：（4月に選定後、購入予定）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	序章 化学の特徴 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合			<ul style="list-style-type: none"> 生活の中の化学について再発見をし、化学の役割について理解を深め、化学を学ぶことに意欲をもつ。 物質が原子、イオン、分子から構成されていることや、構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。 イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合及びイオン結晶の性質を理解する。 共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間にはたらく力や分子結晶の性質を理解する。 金属結合及び金属の性質を理解する。 			
2	第2編 第1章 物質と化学反応式 第2章 酸と塩基の反応 1 酸・塩基 2 水の電離と水溶液の pH			<ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量・式量などの物質の質量の基本事項、物質の質量や溶液の濃度を理解する。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。 水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係及び pH について理解する。 			
3	第2章 酸と塩基の反応 3 中和反応と塩 4 中和滴定 第3章 酸化還元反応			<ul style="list-style-type: none"> 酸化・還元の意味を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 酸化還元反応と電池のしくみの関係を理解する。 酸化還元反応と日常生活や社会生活との関わりについて理解する。 酸と塩基の性質と、中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 中間・定期考査等は、学習内容に合わせて問題を出題する。 学習のねらいを実現するため、発展的内容を適宜取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	2 単位	履修学年	Ⅱ 年 Ⅱ 類 文 系
到達目標	物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えるとともに、目的意識をもって観察・実験等を行い、化学的に探究する能力を習得する。また、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「化学基礎」 副教材：（4月に選定後、購入予定）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合			<ul style="list-style-type: none"> 物質が原子、イオン、分子から構成されていることや、構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。 イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合及びイオンからなる物質の性質を理解する。 共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。 金属結合及び金属の性質を理解する。 			
2	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 第2章 酸と塩基の反応			<ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量・式量などの物質質量に関連した基本事項を習得する。 溶液の濃度の表し方や濃度の換算について理解する。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係及びpHについて理解する。 酸と塩基の性質と、中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 中和滴定と滴定曲線について理解する。 			
3	第3章 酸化還元反応			<ul style="list-style-type: none"> 酸化・還元の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 酸化還元反応と日常生活や社会生活との関わりについて理解する。 酸化還元反応と電池のしくみの関係を理解する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査などは、学習内容に合わせて問題を出題する。 学習のねらいを実現するため、発展的内容を適宜取り入れる。 大学入学共通テストに対応できる力をつけるため、副教材を活用した問題演習を行う。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	2 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類特文
到達目標	物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えるとともに、目的意識をもって観察・実験等を行い、化学的に探究する能力を習得する。また、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験等を行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「化学基礎」 副教材：（4月に選定後、購入予定）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合			<ul style="list-style-type: none"> 物質が原子、イオン、分子から構成されていることや、構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。 イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合及びイオンからなる物質の性質を理解する。 共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。 金属結合及び金属の性質を理解する。 			
2	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 第2章 酸と塩基の反応			<ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量・式量などの物質質量に関連した基本事項を習得する。 溶液の濃度の表し方や濃度の換算について理解する。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係及びpHについて理解する。 酸と塩基の性質と、中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 中和滴定と滴定曲線について理解する。 			
3	第3章 酸化還元反応			<ul style="list-style-type: none"> 酸化・還元の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 酸化還元反応と日常生活や社会生活との関わりについて理解する。 酸化還元反応と電池のしくみの関係を理解する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査などは、学習内容に合わせて問題を出題する。 学習のねらいを実現するため、発展的内容を適宜取り入れる。 大学入学共通テストに対応できる力をつけるため、副教材を活用した問題演習を行う。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	2単位	履修学年	Ⅱ年Ⅰ類理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会、ものづくりとのつながりを考えさせる。 ・目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「化学基礎」						
1	序 章 化学の特徴 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合 第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 第2章 酸と塩基の反応		<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の化学について再発見し、化学の役割について考える。 ・物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 ・イオン結合や共有結合、配位結合を電子配置と関連付けて理解し、イオンや分子からなる物質の性質を理解する。 ・金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。 ・原子量・分子量・式量などの物質の基本事項、濃度との関係を学ぶ。 ・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 ・水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度（pH）、電離度との関係について理解する。 ・酸と塩基の性質と中和に関与する物質の量的関係を理解する。 				
2	第2編 物質の変化 第3章 酸化還元反応		<ul style="list-style-type: none"> ・酸化還元反応が電子の授受によることを理解し、電池の仕組みについて理解する。 				
3							
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を取り入れながら、自然に関心をもち、科学的に探究しようとする態度を養う。 ・中間・期末考査などは、学習内容に合わせて問題を出題する。 ・学習のねらいを実現するため、発展的内容を取り入れる。 ・入試に十分対応できるように、プリントを用いて、基本的な知識の確実な定着を図る。 						

科目の年間授業計画 (シラバス)

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	2 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会、ものづくりとのつながりを考えさせる。 ・目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数(語句・簡単な計算・問題集の類似問題)、実験レポート(方法・データ)等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数(計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題)、レポート、実験レポート(考察)等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート(振り返り)、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「化学基礎」						
1	序 章 化学の特徴 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合 第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 第2章 酸と塩基の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の化学について再発見し、化学の役割について考える。 ・物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 ・イオン結合や共有結合、配位結合を電子配置と関連付けて理解し、イオンや分子からなる物質の性質を理解する。 ・金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。 ・原子量・分子量・式量などの物質の基本的な事項、濃度との関係を学ぶ。 ・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 ・水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度(pH)、電離度との関係について理解する。 ・酸と塩基の性質と中和に関与する物質の量的関係を理解する。 					
2	第2編 物質の変化 第3章 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化還元反応が電子の授受によることを理解し、電池の仕組みについて理解する。 					
3							
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を取り入れながら、自然に関心をもち、科学的に探究しようとする態度を養う。 ・中間・期末考査などは、学習内容に合わせて問題を出題する。 ・学習のねらいを実現するため、発展的内容を取り入れる。 ・入試に十分対応できるように、プリントを用いて、基本的な知識の確実な定着を図る。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	2 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類特理
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会、ものづくりとのつながりを考えさせる。 ・目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「化学基礎」						
1	序 章 化学の特徴 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合 第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 第2章 酸と塩基の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の化学について再発見し、化学の役割について考える。 ・物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 ・イオン結合や共有結合、配位結合を電子配置と関連付けて理解し、イオンや分子からなる物質の性質を理解する。 ・金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。 ・原子量・分子量・式量などの物質の基本事項、濃度との関係を学ぶ。 ・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 ・水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度 (pH)、電離度との関係について理解する。 ・酸と塩基の性質と中和に関与する物質の量的関係を理解する。 					
2	第2編 物質の変化 第3章 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化還元反応が電子の授受によることを理解し、電池の仕組みについて理解する。 					
3							
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を取り入れながら、自然に関心をもち、科学的に探究しようとする態度を養う。 ・中間・期末考査などは、学習内容に合わせて問題を出題する。 ・学習のねらいを実現するため、発展的内容を取り入れる。 ・入試に十分対応できるように、プリントを用いて、基本的な知識の確実な定着を図る。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学	単位数	2 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅰ類理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会、ものづくりとのつながりを考えさせる。 ・目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「新編 化学」						
1							
2	第2編 物質の変化 第2章 電池と電気分解 第1編 物質の状態 第1章 固体の構造 第2章 物質の状態変化 第3章 気体 第4章 溶液		<ul style="list-style-type: none"> ・金属の酸化還元反応について理解した上で、電池、電気分解の仕組みと量的関係について理解する。 ・単位格子・結晶格子の概念及び結晶の構造を理解する。 ・状態変化に伴うエネルギーの出入りや気液平衡と蒸気圧について理解する。 ・気体の体積と圧力、温度との関係をボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式を中心にして理解する。 ・溶解度について理解する。また、蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧、コロイド溶液について理解する。 				
3	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー 第2章 化学反応の速さとしくみ 第3章 化学平衡		<ul style="list-style-type: none"> ・熱化学方程式、反応熱、ヘスの法則について理解する。 ・電池の種類と構造、電気分解の法則について理解する。 ・化学反応のしくみ、反応速度の意味を定量的な取り扱いも含めて理解する。 ・平衡の移動についてルシャトリエの原理を中心に理解する。 ・電離平衡、塩の加水分解、緩衝液、溶解平衡、溶解度積について理解する。 				
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を取り入れながら、自然に関心をもち、科学的に探究しようとする態度を養う。 ・中間・期末考査などは、学習内容に合わせて問題を出題する。 ・学習のねらいを実現するため、発展的内容を取り入れる。 ・入試に十分対応できるように、プリントを用いて、基本的な知識の確実な定着を図る。 						

科目の年間授業計画 (シラバス)

教科	理 科	科目	化学	単位数	3 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会、ものづくりとのつながりを考えさせる。 ・目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数(語句・簡単な計算・問題集の類似問題)、実験レポート(方法・データ)等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数(計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題)、レポート、実験レポート(考察)等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート(振り返り)、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「化学」						
1							
2	第2編 物質の変化 第2章 電池と電気分解 第1編 物質の状態 第1章 固体の構造 第2章 物質の状態変化 第3章 気体 第4章 溶液		<ul style="list-style-type: none"> ・金属の酸化還元反応について理解した上で、電池、電気分解の仕組みと量的関係について理解する。 ・単格子・結晶格子の概念及び結晶の構造を理解する。 ・状態変化に伴うエネルギーの出入りや気液平衡と蒸気圧について理解する。 ・気体の体積と圧力、温度との関係をボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式を中心にして理解する。 ・溶解度について理解する。また、蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧、コロイド溶液について理解する。 				
3	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー 第2章 化学反応の速さとしくみ 第3章 化学平衡		<ul style="list-style-type: none"> ・熱化学方程式、反応熱、ヘスの法則について理解する。 ・電池の種類と構造、電気分解の法則について理解する。 ・化学反応のしくみ、反応速度の意味を定量的な取り扱いも含めて理解する。 ・平衡の移動についてルシャトリエの原理を中心に理解する。 ・電離平衡、塩の加水分解、緩衝液、溶解平衡、溶解度積について理解する。 				
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を取り入れながら、自然に関心をもち、科学的に探究しようとする態度を養う。 ・中間・期末考査などは、学習内容に合わせて問題を出題する。 ・学習のねらいを実現するため、発展的内容を取り入れる。 ・入試に十分対応できるように、プリントを用いて、基本的な知識の確実な定着を図る。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学	単位数	3 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類特理
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会、ものづくりとのつながりを考えさせる。 ・目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「化学」						
1							
2	第2編 物質の変化 第2章 電池と電気分解 第1編 物質の状態 第1章 固体の構造 第2章 物質の状態変化 第3章 気体 第4章 溶液		<ul style="list-style-type: none"> ・金属の酸化還元反応について理解した上で、電池、電気分解の仕組みと量的関係について理解する。 ・単位格子・結晶格子の概念及び結晶の構造を理解する。 ・状態変化に伴うエネルギーの出入りや気液平衡と蒸気圧について理解する。 ・気体の体積と圧力、温度との関係をボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式を中心にして理解する。 ・溶解度について理解する。また、蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧、コロイド溶液について理解する。 				
3	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー 第2章 化学反応の速さとしくみ 第3章 化学平衡		<ul style="list-style-type: none"> ・熱化学方程式、反応熱、ヘスの法則について理解する。 ・電池の種類と構造、電気分解の法則について理解する。 ・化学反応のしくみ、反応速度の意味を定量的な取り扱いも含めて理解する。 ・平衡の移動についてルシャトリエの原理を中心に理解する。 ・電離平衡、塩の加水分解、緩衝液、溶解平衡、溶解度積について理解する。 				
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を取り入れながら、自然に関心をもち、科学的に探究しようとする態度を養う。 ・中間・期末考査などは、学習内容に合わせて問題を出題する。 ・学習のねらいを実現するため、発展的内容を取り入れる。 ・入試に十分対応できるように、プリントを用いて、基本的な知識の確実な定着を図る。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物基礎	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅰ類文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理、法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 生物の多様性と共通性、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解する。 体内環境の維持及び免疫と健康との関係について理解する。 生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用教材	教科書 実教出版 生物基礎 副教材 啓林館 新編 センサー生物基礎（デジタル）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1章 1節 生物の多様性と共通性 2節 細胞とエネルギー 2章 1節 遺伝情報とDNA 2節 遺伝情報の分配 3節 遺伝情報とタンパク質の合成			<ul style="list-style-type: none"> 生物は多様であるが、多様な生物にも細胞構造をもつなどの共通性があること、共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解させる。 酵素のはたらき、光合成（同化）と呼吸（異化）の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。 遺伝子の本体であるDNAの構造と、遺伝情報はその塩基配列にあることを理解させる。 転写と翻訳を通し、生命現象に重要なタンパク質の合成について学習する。 			
2	3章 1節 体内環境 2節 体内環境の維持としくみ 3節 免疫			<ul style="list-style-type: none"> 体内の細胞にとって、体液は一種の環境であり、その環境が一定に保たれていることを理解させる。 体内ではどのようなしくみがはたらき、どのように調節が行われて恒常性が保たれているのか、循環系、腎臓と肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫について学習する。 			
3	4章 1節 植生と遷移 2節 気候とバイオーム 3節 生態系と物質循環 4節 生態系のバランスと保全			<ul style="list-style-type: none"> 植生とその構造について学習する。 植物の遷移のしくみとその種類を学習する。 地球上にはさまざまなバイオームが見られること、バイオームの分布は主に気温と降水量で決まることを学習する。 生態系の成り立ちと生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。 生態系はバランスが保たれており、人類はそのバランスに大きな影響を与えていることを学習する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業に集中し、学習を定着させる。 グループワークやペアワークを取り入れ、他者との協働を取り入れる。 身近な例を取り上げながら理解させる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物基礎	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ 年Ⅱ 類文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理、法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 生物の多様性と共通性、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解する。 体内環境の維持及び免疫と健康との関係について理解する。 生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書	実教出版	生物基礎				
	副教材	啓林館	新編 センサー生物基礎（デジタル）				
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1 章 1 節 生物の多様性と共通性 2 節 細胞とエネルギー			<ul style="list-style-type: none"> 生物は多様であるが、多様な生物にも細胞構造をもつなどの共通性があること、共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解させる。 酵素のはたらき、光合成（同化）と呼吸（異化）の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。 			
	2 章 1 節 遺伝情報とDNA 2 節 遺伝情報の分配 3 節 遺伝情報とタンパク質の合成			<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の本体であるDNAの構造と、遺伝情報はその塩基配列にあることを理解させる。 転写と翻訳を通し、生命現象に重要なタンパク質の合成について学習する。 			
2	3 章 1 節 体内環境 2 節 体内環境の維持としくみ 3 節 免疫			<ul style="list-style-type: none"> 体内の細胞にとって、体液は一種の環境であり、その環境が一定に保たれていることを理解させる。 体内ではどのようなしくみがはたらき、どのように調節が行われて恒常性が保たれているのか、循環系、腎臓と肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫について学習する。 			
	4 章 1 節 植生と遷移 2 節 気候とバイオーム 3 節 生態系と物質循環 4 節 生態系のバランスと保全			<ul style="list-style-type: none"> 植生とその構造について学習する。 植物の遷移のしくみとその種類を学習する。 地球上にはさまざまなバイオームが見られること、バイオームの分布は主に気温と降水量で決まることを学習する。 生態系の成り立ちと生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。 生態系はバランスが保たれており、人類はそのバランスに大きな影響を与えていることを学習する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業に集中し、学習を定着させる。 単元別に問題演習を取り入れる。 身近な例を取り上げながら理解させる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物基礎	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類特文
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理、法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 生物の多様性と共通性、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解する。 体内環境の維持及び免疫と健康との関係について理解する。 生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書	実教出版	生物基礎				
	副教材	啓林館	新編 センサー生物基礎（デジタル）				
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1章 1節 生物の多様性と共通性 2節 細胞とエネルギー			<ul style="list-style-type: none"> 生物は多様であるが、多様な生物にも細胞構造をもつなどの共通性があること、共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解させる。 酵素のはたらき、光合成（同化）と呼吸（異化）の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。 			
	2章 1節 遺伝情報とDNA 2節 遺伝情報の分配 3節 遺伝情報とタンパク質の合成			<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の本体であるDNAの構造と、遺伝情報はその塩基配列にあることを理解させる。 転写と翻訳を通し、生命現象に重要なタンパク質の合成について学習する。 			
2	3章 1節 体内環境 2節 体内環境の維持としくみ 3節 免疫			<ul style="list-style-type: none"> 体内の細胞にとって、体液は一種の環境であり、その環境が一定に保たれていることを理解させる。 体内ではどのようなしくみかはたらき、どのように調節が行われて恒常性が保たれているのか、循環系、腎臓と肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫について学習する。 			
	4章 1節 植生と遷移 2節 気候とバイオーム 3節 生態系と物質循環 4節 生態系のバランスと保全			<ul style="list-style-type: none"> 植生とその構造について学習する。 植物の遷移のしくみとその種類を学習する。 地球上にはさまざまなバイオームが見られること、バイオームの分布は主に気温と降水量で決まることを学習する。 生態系の成り立ちと生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。 生態系はバランスが保たれており、人類はそのバランスに大きな影響を与えていることを学習する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業に集中し、学習を定着させる。 単元別に問題演習を取り入れる。 身近な例を取り上げながら理解させる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物	単位数	3 単位	履修学年	Ⅱ 年 類理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身につけさせる。 ・生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 生物（実教出版） 副教材 生物問題集</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>1 章 生物の進化 1 節 生命の起源と細胞の進化 2 節 遺伝子の変化と進化のしくみ 3 節 生物の系統と進化</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・生命の誕生から現在までの進化の過程を学ぶ。 ・減数分裂による遺伝子の分配と受精により遺伝的に多様な組み合わせが生じることを理解する。また、現在考えられている進化のしくみを理解する。 ・多様な生物の系統、ヒトの系統について学習する。 			
2	<p>2 章 生命現象と物質 1 節 細胞と分子 2 節 生命現象とタンパク質 3 節 代謝</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・細胞を構成する物質、細胞小器官、細胞の内部構造、細胞のはたらきについて学習する。 ・物質輸送や情報伝達、細胞構造の維持などの生命現象を支えるタンパク質の構造やはたらきについて学習する。 ・酵素、ATPの働きと異化（呼吸）、同化（光合成、窒素同化）の仕組みを理解する。 			
3	<p>3 章 遺伝情報の発現と発生 1 節 遺伝情報とその発現 2 節 発生と遺伝子発現 3 節 遺伝子を扱う技術</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・DNAの構造、複製、タンパク質合成の詳細なしくみ、遺伝子発現の調節を学習する。 ・動物の配偶子形成と受精、卵割から器官分化の始まりまでの過程について学習する。 ・バイオテクノロジーの原理と有用性を理解する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し、積極的な学習態度で臨むこと。 ・問題集を家庭学習として利用し、学習の定着を図ること。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生 物	単位数	4 単位	履修学年	Ⅱ 年 Ⅱ 類理系
到達目標	生物や生物現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育成する。探究的な学習を重視し、学習を進める中で生物や生物現象に対する理解を深め、それらに対する疑問を解決しようとする探究心を育てる。						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用教材	教科書：生物（実教出版） 副教材：ニューステージ生物（浜島書店） センサー生物（啓林館）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1：生物の進化 1 節：生命の起源と細胞の進化 2 節：遺伝子のしくみと進化 3 節：生物の系統と進化			<ul style="list-style-type: none"> ・生命の起源と生物進化の道筋について理解する。 ・生物進化がどのようにして起こるのかを理解する。 ・生物はその系統に基づいて分類できることを理解する。 ・進化の流れをとらえながら、植物や動物、菌類の特徴について理解する。 			
2	2：生命現象と物質 1 節：細胞と分子 2 節：生命現象とタンパク質 3 節：代謝（呼吸と光合成）			<ul style="list-style-type: none"> ・細胞を構成する物質、細胞小器官、細胞の内部構造、細胞のはたらきについて学習する。 ・物質輸送や情報伝達、細胞構造の維持などの生命現象を支えるタンパク質の構造やはたらきについて学習する。 ・酵素・ATPの働きと異化（呼吸）・同化（光合成・窒素同化）の仕組みを理解する。 			
3	3：遺伝情報の発現と発生 1 節：遺伝情報とその発現 2 節：発生と遺伝子発現 3 節：遺伝子を扱う技術			<ul style="list-style-type: none"> ・DNAの構造、複製、タンパク質合成の詳細なしくみ、遺伝子発現の調節を学習する。 ・動物の配偶子形成と受精、卵割から器官分化の始まりまでの過程について学習する。 ・遺伝子発現のしくみと細胞分化との関わりについて学習し、さらに、バイオテクノロジーの原理と有用性を理解する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し、積極的な学習態度で臨むこと。 ・問題集を家庭学習として利用し、学習の定着を図ること。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生 物	単位数	4 単 位	履修学年	Ⅱ 年 Ⅱ 類 特 理
到達目標	生物や生物現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育成する。探究的な学習を重視し、学習を進める中で生物や生物現象に対する理解を深め、それらに対する疑問を解決しようとする探究心を育てる。						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用教材	教科書：生物（実教出版） 副教材：ニューステージ生物（浜島書店） センサー生物（啓林館）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1：生物の進化 1 節：生命の起源と細胞の進化 2 節：遺伝子のしくみと進化 3 節：生物の系統と進化			<ul style="list-style-type: none"> ・生命の起源と生物進化の道筋について理解する。 ・生物進化がどのようにして起こるのかを理解する。 ・生物はその系統に基づいて分類できることを理解する。 ・進化の流れをとらえながら、植物や動物、菌類の特徴について理解する。 			
2	2：生命現象と物質 1 節：細胞と分子 2 節：生命現象とタンパク質 3 節：代謝（呼吸と光合成）			<ul style="list-style-type: none"> ・細胞を構成する物質，細胞小器官，細胞の内部構造，細胞のはたらきについて学習する。 ・物質輸送や情報伝達，細胞構造の維持などの生命現象を支えるタンパク質の構造やはたらきについて学習する。 ・酵素・ATPの働きと異化(呼吸)・同化(光合成・窒素同化)の仕組みを理解する。 			
3	3：遺伝情報の発現と発生 1 節：遺伝情報とその発現 2 節：発生と遺伝子発現 3 節：遺伝子を扱う技術			<ul style="list-style-type: none"> ・DNAの構造，複製，タンパク質合成の詳細なしくみ，遺伝子発現の調節を学習する。 ・動物の配偶子形成と受精，卵割から器官分化の始まりまでの過程について学習する。 ・遺伝子発現のしくみと細胞分化との関わりについて学習し，さらに，バイオテクノロジーの原理と有用性を理解する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し，積極的な学習態度で臨むこと。 ・問題集を家庭学習として利用し，学習の定着を図ること。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	保健体育	科目	体育(男女)	単位数	3単位	履修学年	Ⅱ年文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動を通じて集団の中での個人の役割、協調性を考えることができる。 ・運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができる。 ・それぞれの能力に応じた課題を持ち、目標を持って運動に取り組むことができる。 ・各種のゲームを通じて、ルールや安全に留意し、協力してゲームを進めることができる。 ・豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につける。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】						
	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけた技能や動き等の出来映えを確かめたり、新たに技や動き及び得意技を身に付けたりして、記録や技に挑戦したり、参加者の体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等に応じてルールを工夫するなどして試合をしたり、発表したりできている。技術の名称や行い方、ルールを理解している。 						
	【思考・判断・表現】						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 						
	【主体的に学習に取り組む態度】						
使用教材	「ステップアップ高校スポーツ2024」 「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」(大修館)						
1	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動(集団行動等) ①ソフトボール ②ダンス ・体育理論(1・2) 	から1種目選択	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解し、自己の課題に応じた、健康増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立てることができるようにする。 ・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をする。 ・自主的に取り組ませ、それぞれ技術や体力の高め方などを学ぶ。また、動きなどの自己や仲間の課題を発見し合理的な解決に向けて工夫して取り組ませるとともに自分の考えを他者へ伝えさせる。 ・スポーツにおける技能と体力、スポーツにおける技術と戦術について理解させる。 				
2	<ul style="list-style-type: none"> ①バドミントン ②ソフトテニス ・体育理論(3・4) 	から1種目選択	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わうとともに技術や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解する。 ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をする。 ・効果的な動きのメカニズム、技能の上達過程と練習について理解させる。 				
3	<ul style="list-style-type: none"> ①サッカー ②バスケットボール ・体育理論(5・6) 	から1種目選択	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わうとともに技術や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解する ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることができるようにする。 ・フェアなプレイを大切にしようことを理解させる。 ・体カトレーニング、運動やスポーツでの安全確保について理解させる。 				
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性を重視する。 ・一人ひとりの違いに応じた動きなどを大切にする。 ・話し合いに貢献する。 ・健康・安全を確保する。 ・体育理論を適時実施する。(6時間) 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	保健体育	科目	体育(男女)	単位数	2単位	履修学年	Ⅱ年理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動を通じて集団の中での個人の役割、協調性を考えることができる。 ・運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができる。 ・それぞれの能力に応じた課題を持ち、目標を持って運動に取り組むことができる。 ・各種のゲームを通じて、ルールや安全に留意し、協力してゲームを進めることができる。 ・豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につける。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】						
	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけた技能や動き等の出来映えを確かめたり、新たに技や動き及び得意技を身に付けたりして、記録や技に挑戦したり、参加者の体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等に応じてルールを工夫するなどして試合をしたり、発表したりできている。技術の名称や行い方、ルールを理解している。 						
	【思考・判断・表現】						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 						
	【主体的に学習に取り組む態度】						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動に自主的に取り組むとともに、お互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保している。 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップアップ高校スポーツ2024」 「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」(大修館) 						
1	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動(集団行動等) ①ソフトボール ②ダンス ・体育理論(1・2) 	から1種目選択	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解し、自己の課題に応じた、健康増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立てることができるようにする。 ・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をする。 ・自主的に取り組みせ、それぞれ技術や体力の高め方などを学ぶ。また、動きなどの自己や仲間の課題を発見し合理的な解決に向けて工夫して取り組みせるとともに自分の考えを他者へ伝えさせる。 ・スポーツにおける技能と体力、スポーツにおける技術と戦術について理解させる。 				
2	<ul style="list-style-type: none"> ①バドミントン ②ソフトテニス ・体育理論(3・4) 	から1種目選択	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わうとともに技術や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解する。 ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をする。 ・効果的な動きのメカニズム、技能の上達過程と練習について理解させる。 				
3	<ul style="list-style-type: none"> ①サッカー ②バスケットボール ・体育理論(5・6) 	から1種目選択	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わうとともに技術や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解する ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることができるようにする。 ・フェアなプレイを大切にしようすることを理解させる。 ・体カトレーニング、運動やスポーツでの安全確保について理解させる。 				
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性を重視する。 ・一人ひとりの違いに応じた動きなどを大切にする。 ・話し合いに貢献する。 ・健康・安全を確保する。 ・体育理論を適時実施する。(6時間) 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ 年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯の各段階における健康課題について理解を深め、課題に応じた健康管理及び環境づくりを行える資質を身につける。 ・労働災害は作業形態や作業環境の変化にともなって変化してきたことを理解し、働く人の健康の保持増進に必要な健康管理・安全管理を理解することができる。 ・環境・食品と健康との関わりについて理解を深めることができる。 ・我が国の保健・医療制度について理解し、適切に活用することができる。 ・健康を支える様々な環境作りに関する情報から課題を発見し、解決方法を思考し判断すると共に表現することができる。 						
評価の観点評価基準	【知識・技能】 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。						
	【思考・判断・表現】 生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病などのリスク軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明できる。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。						
使用教材	「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」（大修館）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	3 単元 生涯を通じる健康 1. ライフステージと健康 2. 思春期と健康 3. 性意識と性行動の選択 4. 妊娠・出産と健康 5. 避妊法と人工妊娠中絶 6. 結婚生活と健康 7. 中高年期と健康			3 単元 ・性的成熟に伴う心理面・行動面の変化や、健康な結婚生活、加齢に伴う心身の変化について理解させるとともに、生涯の各段階の健康課題を発見し、解決方法を思考・判断・表現させる。			
	2			2			
	8. 働くことと健康 9. 労働災害と健康 10. 健康的な職業生活 4 単元 健康を支える環境づくり 1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁・土壌汚染と健康 3. 環境と健康にかかわる対策 4. ごみの処理と上下水道の整備			・働く人の健康の保持増進・労働災害の防止には、適切な健康管理及び安全管理をすることを理解させるとともに、様々な情報から課題を発見し、解決方法を思考・判断・表現させる。 4 単元 ・健康の実現のための環境づくりに関する取り組みについて理解させるとともに、課題を発見し、解決方法を思考・判断・表現させる。			
3	5. 食品の安全性 6. 食品衛生にかかわる活動 7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用 9. 医薬品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策 11. 健康に関する環境づくりと社会参加			・食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であることを理解させる。 ・生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度を適切に活用することが必要であることを理解させる。 ・様々な健康を支える環境作りの情報から課題を発見し、解決方法を思考・判断・表現させる。			
	学習上の留意点 ・保健ノートやプリントを活用し、生涯の各段階の健康について考える。 ・映像教材やパワーポイント、ICT機器等を活用し、理解を深める。 ・他者の意見や感想を聴きながら、自分の意見も発表し、考えを深める。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ年Ⅰ類文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽文化についての理解を深め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。 ・世界の多種多様な音楽を積極的に探求して、自分が持っている音楽の世界を広げる。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】・創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、表現しているか。 ・多様な音楽や音楽文化に対して理解を深めているか。</p> <p>【思考・判断・表現】・音楽の要素等を知覚し、それらの働きを感受し、その関わりを考え、どのように表現するかを思考し、その音楽のよさや美しさを味わいながら、鑑賞・表現しているか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】・様々な音楽に興味・関心を持ち、意欲的・主体的に音楽活動を行っているか</p>						
使用教材	教育出版「音楽Ⅰ Tutti +」 カワイ出版「高校生のための音楽ノート」、自作プリント						
学期	学習内容			学習のねらい			
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 「青いベンチ」「負けないで」等 ・鑑賞 「グレゴリオ聖歌」「教皇マルチェルスのみサ」「メサイア」他 ・楽典、音楽史 ・実技試験 			日常耳にするJ-POPについても、新旧織り交ぜることにより、多様なスタイルの曲があることを感じ取る。また各国の歌曲についてそれぞれの語感や音楽性について考える。 1年次に学んだ事をふまえ、様々な楽曲を鑑賞し、作曲家や文化的背景を知る。 楽典および音楽史について学習し理解を深める。 学習内容の確認を行う			
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞 「ピアノ協奏曲第21番ハ長調」「オペラ 魔笛」等 ・歌唱 「Danny Boy」「荒城の月」等 ・楽典、音楽史 ・実技試験 			音楽史について理解を深め、それぞれの時代の曲を鑑賞し、特徴を理解する。 音楽を学習する上で、基本的な楽譜の知識を身につけ表現する。 学習内容の確認を行う。			
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞 「24の奇想曲」「ヴァルキューレの騎行」「フィンランディア」「春の祭典」等 ・楽典、音楽史 ・筆記試験 			1、2学期の学習内容をふまえ、様々な音楽を鑑賞し、音楽についてその発展や関連性について音楽史と併せて理解を深める。また、日本音楽についても学習し、理解を深める。 学習内容の確認を行う。			
学習上の留意点	音楽の活動では、集中するということが何よりも大切である。また、音楽の表現や鑑賞の活動では、他の人と積極的に関わりながら自己の感性や能力を向上させていくことが大切である。						

科目の年間授業計画(シラバス)

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ年 I 類文系
到達目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、美術文化についての理解を深め、個性豊かな感性と能力を高める。						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 対象や事象を捉える造形的な視点の知識について理解を深めているか。 * 制作活動において必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表しているか <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 自ら主題を生成し、表現形式の特性を生かし、創造的な表現の構想を練っているか。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組めたか。 * 準備から片付けまで主体的に取り組むことができたか。 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> * 教科書 * スケッチブック、絵の具などは I 年次の授業と同様各自準備し、一括購入はしないが、購買で購入可。(詳しくは最初の美術の授業時に説明する。) 						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵画 <ul style="list-style-type: none"> ・素描 (手や器物などの身の回りのものを描く) ・人物画、静物画、風景画等の中から、各講座の人数、能力などに応じていずれかの課題を指定する。 ○ 鑑賞 教科書、生徒作品、図録、DVD等の利用 			<ul style="list-style-type: none"> * 観察により、対象のよさや美しさを感じ取るとともに、それらを表現するための技能を高める。 * 描写・着彩の技能を高め、画材の効果的な活用や併用方法を理解する。 * 構想により、自ら意図したものを効果的に表現するための構成能力を高める。 * 作者の心情や意図、表現の工夫などを理解し、その良さや美しさを味わう心を養う。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 立体課題 身近な材料や廃品を利用して計画的に制作する。 ○ 鑑賞 教科書、生徒作品、図録、DVD等の利用 			<ul style="list-style-type: none"> * 興味、関心、意欲、能力に応じて自らの課題を発見し制作に臨む態度を身につける。 * 材料や用具の特性を理解し、多様な技法を身につける。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平面課題 絵の具、鉛筆、ペンなどの身近にある画材を用いて制作する。 ○ 鑑賞 教科書、生徒作品、図録、DVD等の利用 			<ul style="list-style-type: none"> * 素材を生かし、独創的な表現をしようとする態度を養う。 * 自他の作品を通して、今後の生活や制作活動に生かそうとする態度を養う。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> * 制作は授業時間内に終わることを原則とするが、希望者には放課後美術室での制作を許可する。 * 準備や片付けに時間が取られるため、常に積極的に取り組み、短い時間を有効に使うように指導する。 * 興味、関心、意欲、能力には個人差があるので、各講座の様子によって制作課題を多少変更することがある。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	1単位	履修学年	Ⅱ年Ⅰ類文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ I年時で培った表現と鑑賞の基礎的能力を伸ばす。 ・ 書道の活動（漢字の書）を通し表現力を身につけ、書の美しさを感じとる鑑賞力を育てる。 ・ 書を愛好する心情を育てる。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 書の表現や、発展的な古典を理解し、効果的な技法を身につけ、臨書することができたか。						
	【思考・判断・表現】 書の様々な美を感じとり、書体や書風・作者の意図や技法などを理解し、表現を工夫することができたか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 書の表現や鑑賞など、幅広い活動に取り組もうとする。						
使用教材	書道 I（書 I 704）教育出版・自作プリント						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	○隷書・篆書の学習			隷書・篆書とはどのような書体か知る。 隷書・篆書の基本的な用筆・運筆・結構を臨書・鑑賞することにより習得し、その特徴を理解する。 隷書・篆書の習得した技法を生かして創作する。			
2	○楷書の学習 ○行書の学習			個性豊かな楷書の古典を通して習得した技法を生かして創作する。 I年の学習を基に、行書の多様な表記にふれ、自らの個性を生かす古典を選択して、学習を深める。 行書の習得した技法を生かして創作する。			
3	○篆刻の学習			一字印を刻する。			
学習上の留意点	I年で学習した楷書・行書又新しく学習した隷書・草書について、表現・鑑賞を通し、自分の課題点を見極め、それぞれの個性を伸ばすようにさせる。 また、篆刻では用具の使い方に留意する。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4単位	履修学年	Ⅱ年Ⅰ類
到達目標	<p>日常的、社会的な話題について、話される速さや使用される語句や文、情報量などにおいて一定の支援を活用し、以下に示す5領域において、それぞれの能力を身につける。</p> <p>【聞くこと】必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要を把握できるようになる。</p> <p>【読むこと】必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、概要を把握できるようになる。</p> <p>【話すこと(やりとり)】多様な語句や文を用いて、情報や考えを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようになる。</p> <p>【話すこと(発表)】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段階から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようになる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを、定期考査や小テストなどで確認し、評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況を、パフォーマンステストや定期考査などで確認し、評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自らの学習を調整しようとしているか、また、粘り強く学習に取り組んでいるかを、各種課題やリフレクション等で確認し、評価する。</p>						
使用教材	<p>『MY WAY English Communication Ⅱ』（三省堂） 『MY WAY English Communication Ⅱ ワークブック スタンダード版』（三省堂） 『MY WAY マイウェイ総合英語』（三省堂） 『APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION Ⅱ』（開隆堂出版） 教科書の内容に準拠したプリント</p>						
	内容			学習のねらい			
1学期	Lesson 1 Dances Around the World			関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法項目を使ったコミュニケーションをALTとの活動(1時間/週)から学ぶ。 ※ALTとの活動時には活動内容に合わせて「論理・表現Ⅱ」の教科書を使用することがある			
	Lesson 2 Katsura Sunshine -Making the World Laugh			以下の[題材][場面]について[言語材料]を使って学ぶ [題材] ダンス、比較文化 [場面] レポート・学校生活 [言語材料] SVO (O=that/what 節) / SVO (O=if/whether 節) / SV0102 (O2=if/that/what 節)			
	Lesson 3 Living with Nature -Takita Asuka's Journey			[題材] 日本文化、比較文化 [場面] インタビュー・学校生活 [言語材料] 形式主語の it / 形式目的語の it① / 形式目的語の it②			
	Lesson 4 Sesame Street			[題材] 共生、平和 [場面] 講演・学校生活 [言語材料] 現在完了形・現在完了進行形 / 過去完了形 / 過去完了進行形			
			[題材] 多様性、異文化 [場面] 雑誌記事・学校生活 [言語材料] SVOC (V=知覚動詞、C=動詞の原形) / SVOC (V=知覚動詞、C=過去分詞) /				

		SVOC (V=使役動詞 have/make、C=過去分詞) / help+O+動詞の原形
2 学 期	Lesson 5 From Landmines to Herbs	[題材] 平和、異文化 [場面] 雑誌記事・地域での生活 [言語材料] 関係代名詞 (主格) / 前置詞+関係代名詞 / 関係代名詞の非制限用法 / 関係副詞の非制限用法
	Lesson 6 Murals—The Power of Public Art	[題材] 芸術、異文化 [場面] レポート・学校生活 [言語材料] 助動詞 / 助動詞の過去形を使った表現 / 助動詞+have+過去分詞 / 完了不定詞
	Lesson 7 “Englishes” in the World	[題材] 言語、異文化 [場面] 講演・学校生活 [言語材料] 分詞構文 / 受け身の分詞構文 / 完了形の分詞構文 / 付帯状況with
	Lesson 8 Deepika Kurup —The Science Behind Clean Water	[題材] 科学、環境、生き方 [場面] インタビュー・地域での活動 [言語材料] 仮定法過去 / 仮定法過去完了 / ifを使わない仮定法 / no matter+疑問詞
3 学 期	Lesson 9 The World’ s Poorest President	[題材] 人物、生き方 [場面] 雑誌記事・日常生活 [言語材料] 同格を表す that 節 / 強調構文 / 倒置 / 省略
	Lesson 10 Living in an E-Society —The Pros and Cons	[題材] デジタル社会 [場面] 討論・日常生活
	For Reading Syria’ s Secret Library	[題材] 物語 / [場面] 本
学習 上の 留意 点	授業では教科書以外にも、「MY WAY English Communication II ワークブック」や教科書の内容に準じたプリントを使い、内容の理解と文法を習得させます。授業の予習として、英文に目を通し、分からない英単語の意味を辞書で調べさせます。また、授業後は学習した英文を音読したり、文法問題を解き直すことにより復習させます。また、定期的に英単語・熟語のテストを行うことで、1回1回のテスト勉強を通して語彙力を強化させます。こうした日々の積み重ねにより、英語力を向上させていきます。	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類
到達目標	<p>日常的、社会的な話題について、話される速さや使用される語句や文、情報量などにおいて一定の支援を活用すれば、以下に示す5領域において、それぞれの能力を身につける。</p> <p>【聞くこと】必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要を把握できるようになる。</p> <p>【読むこと】必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、概要を把握できるようになる。</p> <p>【話すこと(やりとり)】多様な語句や文を用いて情報や考えを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようになる。</p> <p>【話すこと(発表)】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段階から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを、定期考査や小テスト等で確認して評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に話したり書いたりして表現することや、伝え合う状況を、パフォーマンステストや定期考査等で確認して評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や、思考力・判断力・表現力を身につける過程において、自ら見通したり振り返ったりするなど、自らの学習活動を調整しようとしているか、また、粘り強く学習に取り組んでいるかを各種課題やリフレクションなどで確認して評価する。</p>						
使用教材	<p>FLEX ENGLISH COMMUNICATION II（増進堂） ※ALTとの活動時には、内容に合わせて 「論理・表現Ⅰ」教科書EARTHRISE English Logic and Expression II Advanced（数研出版）を使用</p>						
		内 容		学 習 の ね ら い			
1	Lesson 1 Anime Pilgrimages		以下の[題材]について[言語材料]を使って学ぶ [題材]文化 [言語材料] 受け身の不定詞/受け身の進行形				
	Lesson 2 Iwaya Keisuke and the Pursuit of Dreams		[題材]科学 [言語材料] 助動詞+完了形/受け身の完了形				
	Lesson 3 The Surprising History of Salt		[題材]文化 [言語材料] If節のない仮定法/動名詞の意味上の主語				
	Lesson 4 A Future World, with or without Sea Turtles		[題材]自然 [言語材料] as ifを用いた仮定法/疑問詞+to do				
	Optional 1 Billy's Mission		[題材]日常 [言語材料] 同格を導く接続詞that/関係副詞の非制限用法 [題材]日常 [言語材料] 否定の分詞構文/完了形不定詞 [題材]産業 [言語材料] 部分否定/If S' were to V, S would V [題材]科学 [言語材料] 付帯状況のwith/受け身の分詞構文				

2	<p>Lesson 5 The Psychology of Waiting in Line</p> <p>Lesson 6 The Human Library</p> <p>Lesson 7 More Than Just Shelters</p> <p>Lesson 8 Infectious Diseases and Humans Optional 2 Days with Rose</p>	<p>[題材] 社会 [言語材料] 倒置/完了形の分詞構文</p> <p>[題材] 日常 [言語材料] 複合関係代名詞/二重否定</p>
3	<p>Lesson 9 Fashion for Pride</p> <p>Lesson 10 Larry Page and the Dream of Google</p> <p>Optional 3 “ The 14th Dalai Lama”</p>	<p>[題材] 社会 [言語材料] 倒置/完了形の分詞構文</p> <p>[題材] 日常 [言語材料] 複合関係代名詞/二重否定</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学習上の 留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や配布されたプリントは、必ず予習・復習を行いましょう。その際、文構造や文法事項を意識し、読解力を高めることを心がけてください。 ・授業では、ペア活動やグループ活動を行うこともあります。他者の意見を尊重し、協力する姿勢を大切にしながら、積極的に発話しましょう。 ・英語の学習では音読が重要です。自信を持って声に出し、繰り返し練習することで、確実に力を伸ばしていきましょう。 	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅱ	単位数	3単位	履修学年	Ⅱ年Ⅰ類
到達目標	<p>日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、次のことができる。</p> <p>【話すこと(やり取り)】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができる。また様々なアウトプットの活動を通して、意見や課題解決策等を論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようになる。</p> <p>【話すこと(発表)】多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができる。またスピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようになる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況をパフォーマンステストや定期考査等で確認し、評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また粘り強く学習に取り組んでいるかを各種課題やリフレクション等で確認し、評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書『APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅡ』（開隆堂出版）</p> <p>副教材『APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅡWorkbook』（開隆堂出版）</p> <p>『MY WAY マイウェイ総合英語』（三省堂）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	Lesson 1 Reflections Before Starting a New Life Lesson 2 Let Your Dreams Come True Lesson 3 Dos and Don'ts in Social Media Lesson 4 Future Prospects Lesson 5 Let's Keep in Good Shape			過去と現在を表す表現 を習得する。 未来を表す表現 を習得する。 助動詞 を習得する。 完了形 を習得する。 受動態 を習得する。			
2	Lesson 6 Energy Consumptions in the World Lesson 7 Voter Turnout in Comparison Lesson 8 What Has Impressed Me the Most Lesson 9 Sports for Everybody Lesson 10 The Latest News from around the World Lesson 11 Let's Find Out What We Can Do for Others			比較①（比較級・最上級）を習得する。 比較②（同等比較・倍数比較）を習得する。 動名詞 を習得する。 to不定詞（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法）を習得する。 分詞（現在分詞、過去分詞）を習得する。 関係詞①（関係代名詞）を習得する。			
3	Lesson 12 Learn about Other Countries and People Lesson 13 Global Issues Lesson 14 Food Culture around the World			関係詞②（関係副詞）を習得する。 仮定法 を習得する。 特殊構文 を習得する。			
学習上の留意点	<p>授業では教科書以外にも、「APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅡWorkbook」や「MY WAY マイウェイ総合英語」、教科書の内容に準じたプリントを使い、文法事項を確認、習得をしていきます。授業の予習として、英文に目を通し分からない英単語の意味を辞書で調べ、授業後は文法問題を解き直したりして復習をしてください。また、定期的に英単語・熟語のテストを行いますので、1回1回のテスト勉強を通して、語彙力を強化してください。こうした日々の積み重ねが英語力向上につながります。</p>						

科目の年間授業計画 (シラバス)

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅱ	単位数	3単位	履修学年	Ⅱ年Ⅱ類
到達目標	<p>日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、次のことができる。</p> <p>【話すこと(やり取り)】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができる。また様々なアウトプットの活動を通して、意見や課題解決策等を論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようになる。</p> <p>【話すこと(発表)】多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができる。またスピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようになる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを、定期考査や小テストなどで確認して評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況を、パフォーマンステストや定期考査等で確認して評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自らの学習を調整しようとしているか。また粘り強く学習に取り組んでいるかを、各種課題やリフレクションなどで確認して評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書『EARTHRISE English Logic and Expression Ⅱ Advanced』(数研出版) 副教材『EARTHRISE English Logic and Expression Ⅱ Advanced ワークブック』(数研出版) など</p>						
	学習内容			学習のねらい			
1	Part 1 : Basic Expressions (文法の復習)						
	Lesson 1 Have you ever experienced any cultural differences?			さまざまな主語の形 を習得する。 <i>doing</i> 【動名詞】/ <i>It is ~ to do</i> / 主語が長い場合 etc.			
	Lesson 2 Where do you usually buy things?			さまざまな動詞の形 を習得する。 <i>can</i> / <i>should</i> / <i>don't have to</i> / <i>have [had] been doing</i>			
	Lesson 3 International events and cultural exchange			名詞のはたらきをする表現 を習得する。 <i>to do</i> 【不定詞】/ <i>doing</i> 【動名詞】/ <i>that</i> / <i>whether</i> / <i>what+S+V</i>			
	Lesson 4 How have you been lately?			形容詞のはたらきをする表現 を習得する。 <i>who, that</i> 【関係代名詞】/【分詞】/【不定詞】			
	Lesson 5 How do you watch movies and things?			副詞のはたらきをする表現 を習得する。 (前置詞+名詞) /【不定詞】/ <i>if...</i> /【分詞構文】			
2	Part 2 : Functional Expressions (機能表現)						
	Lesson 1 Making life better			感情を表す <i>It's nice of you to...</i> / <i>I'm really sorry...</i> / <i>My complaint is that...</i>			
	Lesson 2 Good eating habits			助言する・忠告する/必要・義務を表す <i>You should...</i> / <i>Why don't you...?</i> / <i>ought to...</i> / <i>need to...</i>			
	Lesson 3 Visiting a new place			勧誘する・提案する/依頼する <i>Why don't we...?</i> / <i>How about doing...?</i> / <i>Could you...?</i>			
	Lesson 4 Where would you like to live in the future?			賛成する/反対する <i>I agree with...</i> / <i>That's not for me.</i> / <i>It may be true..., but...</i>			
	Lesson 5 Which candidate is the right person?			意見を述べる/希望を述べる <i>It seems to me that...</i> / <i>In my opinion,</i> / <i>I would like to...</i>			
3	Part 3 : Express Yourself Logically (論理的な自己表現活動)						
	Lesson 1 Advertising a language school			パラグラフの構成 を理解する。			
	Lesson 2 Inventions and discoveries			例示・列挙 を理解する。			
	Lesson 3 How people use their smartphones			比較・対照 を理解する。			
	Lesson 4 Our accommodation in Okinawa			原因・結果 を理解する。			
	Lesson 5 Getting ready for high school exams			時間的順序・手順 を理解する。			
学習上の留意点	<p>授業では教科書以外にも、プリントや「EARTHRISE 総合英語」で文法事項を確認します。</p> <p>また、定期的に英単語・熟語のテストを行ったり、大学入試対策としてテスト形式の演習も行います。</p> <p>1回1回のテスト勉強を通じて、語彙力を強化してください。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	宗 教	科目	一般仏教	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ 年
到達目標	大乘仏教の思想がその後、中国・日本にどの様に伝播し、日本ではどの様に展開してゆくかを中心に学び、その思想が日本文化の形成に大きな影響を与えてきたかを学習し、そして仏教の教えが今日ますます重要であるかを学習する。						
評価の観点・評価の基準	1. 知識の理解・・・大乘仏教の成立背景、大乘仏教の主張である利他の教え、菩薩の精神、慈悲の心などが理解されているかどうか。日本仏教の祖師の教えを理解しているかどうか。 2. 思考・・・仏教の基本的な教えを学ぶことによって、人生の意味（人生観）、人間の価値（人間観）、社会でのあり方（社会観）について思考されているかどうか。そして自分自身が主体的に実践する方法について思考する。						
使用教材	『高校生からの仏教入門』 釈尊から親鸞聖人へ（本願寺出版社） 『礼拝聖典』（百華苑） 『さとの知恵を読む』（仏教伝道教会）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1 学期	4月 仏教の伝承 5月 経典編集と仏教教団の分裂 6月 『仏説無量寿経』と「歎仏偈」の概要 7月 「歎仏偈」本文			<ul style="list-style-type: none"> ・ 釈尊の思想的特徴と流通の仕方を理解する。 ・ 結集と経典の成立を理解する。 ・ 「歎仏偈」の概要を理解する。 ・ 「歎仏偈」に説かれる大乘仏教の思想を理解する。 			
2 学期	9月 大乘仏教の成立 10月 仏教の日本伝来とその展開 聖徳太子と日本仏教 11月 奈良時代の仏教 国家仏教 12月 東大寺大仏の創建、鑑真の来朝			<ul style="list-style-type: none"> ・ 大乘仏教の成立背景と思想的特徴を理解する。 ・ 仏教公伝の時代背景を理解する。 ・ 和の貴さを理解する。 ・ 仏教文化について理解する。 ・ 四弘誓願について理解する。 ・ 仏教伝道の厳しさを理解する。 			
3 学期	1月 平安時代の仏教 最澄の教え、空海の教え 2月 鎌倉時代の仏教 浄土教、法然上人の教え 3月 鎌倉新仏教の成立、時宗、禅宗、日蓮宗			<ul style="list-style-type: none"> ・ 最澄と空海の生涯を理解し、天台宗と真言宗の基本的な考え（悉有仏性説・即身成仏論）について理解する。 ・ 法然の生涯を理解し、浄土教の教え、宗教的境遇の重要性を理解する。 ・ 仏教の民衆性とその展開を理解する。 			
学習上の留意点	仏教への誤解を解き放ち、仏教理解を深めることが現代社会においてどれほど重要であるかを主体的に受容させる。混迷し精神的な不安の多い現代社会において、大乘仏教の特徴である智慧と慈悲の精神を学ぶことの重要性を理解させる。又、その教えを身近な日常生活の中で活用、実践する方向に導くことによって、生命の尊厳性に目覚め、人権を尊重し、社会生活におけるマナーの遵守につなげていく。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	探究	科目	総合的な探究の時間	単位数	1	履修学年	高Ⅱ学年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につけ、主体的かつ計画的に課題に取り組むようにする。 地域や社会の出来事に高い関心を持ち、身近なものや環境から問題・テーマを決定し、自らの問題として考える力を身につける。 物事を客観的に分析し、他者を意識しながらまとめたり、表現したりする力を身につける。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 探究過程において、課題発見と解決に必要な発展的な知識及び技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】 身近なものや環境を深く知り、地域や社会の問題を身近に捉えながら、「これからの自分に何ができるか」を見つけだし、自分のテーマを決め発表する。問題解決に必要な情報を様々な手段を選択しながら収集している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 自分の興味・関心のある問題やテーマを知り、物事を客観的かつ科学的に見る力を身につけようとしている。よりよい地域、よりよい社会を実現しようとする態度を養おうとしている。</p>						
使用教材	『ゼロから始める課題活動 課題研究メソッドZERO』（啓林館）						
1	<ul style="list-style-type: none"> 1年生に引き続き、各自が身近なものや環境から問題・テーマを検討し、目標を設定する。 探究テーマの最終的な計画を立て、企画書を作成する。 企画書に従って生徒一人一人が活動する。 発表資料を作成し、発表を行う。 発表を踏まえ、企画書を再検討する。 		<ul style="list-style-type: none"> 今後の世界・社会の中で、自分自身がどのように生きていくかを考え、よりよい地域やよりよい社会の実現に向けて意識を持たせる。 将来も学び続け、答えのない課題を解決に導くための発展的な力(テーマへの「問い」の立て方、情報収集・調査・分析の方法など)を身につけさせる。 				
2	<ul style="list-style-type: none"> 企画書の再検討を踏まえ、情報収集・調査・分析を行う。 活動内容を振り返りながら、活動の報告をし、進捗の確認をする。 クラスやグループで意見交換や質疑応答を行い、発表用資料をまとめる。 発表の練習をするとともに、タイムキーパーや録画も行ない、発表に主体的に関わる。 		<ul style="list-style-type: none"> 情報収集・調査・分析などの探究活動を通して、客観的な視点を身につけさせる。 課題の発見と解決に至る過程を発表するために、他者を意識してまとめ表現する力を身につけさせる。 				
3	<ul style="list-style-type: none"> 自分で決めたテーマとその解決策を発表する。 他者の発表に対して、質疑応答・評価・批評を行う。 1年間で自分自身の資質や能力の成長を各人で振り返り、達成できたことやできなかったことを見つめ反省点を明確にする。 		<ul style="list-style-type: none"> 探究活動を通して学び得たこと以上に、活動過程での自己理解や自己肯定感の高まりを重視することを理解させる。 				
学習上の留意点	探究の見方・考え方を働かせ、自己の興味・関心や進路選択に基づき、横断的・総合的な課題研究に取り組むことで、あらゆる場面で自ら考え判断し、課題解決に取り組むことができるように、学年所属の全教員が協力し、目標が達成できるよう支援を行う。						

特別活動の年間授業計画（シラバス）

教科	特別活動	内容	ホームルーム活動 生徒会活動 学校行事	単位数	1 単位	履修学年	第Ⅱ学年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中堅学年としての責任ある行動を自覚する。 ・ 進路目標を早期に設定させ自立心を育成する。 ・ 学校生活の充実を図り、健康な心身や態度を育成する。 						
評価の観点・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動への自主性や主体性、責任感、創意工夫など、取り組みの姿勢を振り返らせる。 ・ 活動から学んだことや反省を活かし、自分の生活を見つめ直させる。 						
学期	指 導 内 容 等						
	ホームルーム活動		生徒会活動		学校行事		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中堅学年の自覚と高校生活のあり方について考えさせ、生徒会活動・部活動に積極的に参加できるよう指導する。 ・ 学習や諸行事に最善を尽くし、将来の自分の在り方を考えさせる。 ・ 学年 LHR 		クラス役員選出 体育祭 芸術鑑賞 クラスマッチ 委員会活動		始業式 体育祭 中間考査 期末考査 終業式		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休みを反省し、生活のリズムを取り戻すとともに文化祭の成功に向けての意識づけとクラスの団結を高める。 ・ 校外宿泊学習を有意義なものにし、クラスの団結のために意識の高揚を図る。 ・ 学年 LHR 		文化祭 生徒会役員改選 委員会活動 ピンクシャツ運動		始業式 避難訓練 文化祭 校外宿泊学習 中間考査 期末考査 校内人権学習 終業式		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一年間を反省し、次年度の心がまえについて考えさせる。 ・ 自分の夢や生き方について考えさせる。 ・ 学年 LHR 		クラスマッチ 委員会活動		始業式 校内人権学習 学年末考査 終業式		
学習上の留意点	ささまざまな活動を通して、集団の意義と個の役割の大切さを学ばせ、リーダーシップや友だちとの協調性を育てていくことを期待する。						